

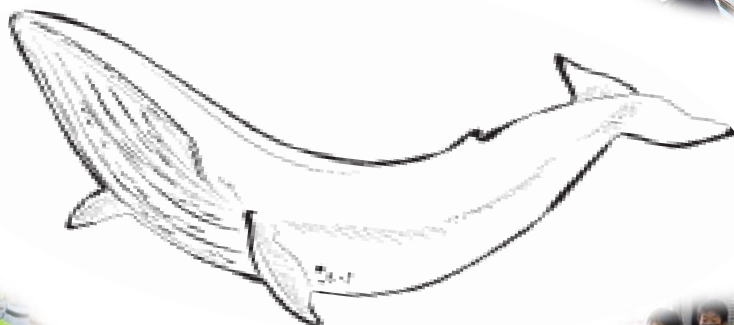
令和5・6年度 平戸市教育委員会研究指定

研究紀要

研究主題

自尊感情を育む教育活動の在り方

～一人一人のよさを認め合い挑戦する児童の育成を目指して～



平戸市立山田小学校

令和6年11月



目次

はじめに

I	研究の概要	1
II	研究の取組	5
III	研究の成果と課題	19
IV	指導案	21
V	資料	37

おわりに

研究同人

はじめに

本日は、本校の研究発表会にご参会いただき、ありがとうございます。

情報化やグローバル化など社会の変化の予測が難しいと言われるこれからの時代の形成者を育成する学校教育はどうあるべきかと問われる中、中央教育審議会では、令和3年1月、「令和の日本型教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）を取りまとめました。学習指導要領においても、「一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の担い手となることができるようにする。」と示され、文科省は、「子供たちの実情を踏まえ、自他の生命を尊重し、学習や生活、仕事に前向きに取り組む力を育てるために、自尊感情や社会性を高めることが必要条件となる。」と述べています。

そこで、本校は、昨年度から研究主題を『自尊感情を育む教育活動の在り方』、副主題を「一人一人のよさを認め合い挑戦する児童の育成を目指して」として、協働的な活動を通して自尊感情を育む研究を進めてきました。授業だけでなく、日々の教育活動全体で、『挑戦』する意識を高め、自他を振り返る中、児童と教員が常に向き合うことを通して、児童一人一人が自他の良さに触れながらともに自尊感情を高め合うことができました。研究を進める中、教員も児童一人一人を深く理解し、個々を大切にする授業改善や学級経営を実現できたように思います。

研究主任を中心として全教職員が同じ方向を向き、「ともに遊び」「ともに働き」「ともに学ぶ」「挑戦」を合言葉に、児童とともに実践に取り組んできました。互いの成長や未来につながる研究であったと確信します。

まだまだ「個別の支援」等の課題もありますが、この研究成果が、児童の「確かな学びの定着」へとつながっていくよう、また、児童の心から溢れる『笑顔』を求めて、継続実践に努めていきます。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり多大なご尽力とご指導をいただきました平戸市教育委員会の皆様、そして、児童を支えてくれた保護者の皆様に心から感謝申し上げます。

令和6年11月1日

平戸市立山田小学校

校長 村川 司麻

Ⅰ 研究の概要

I 研究の概要

1 研究主題

自尊感情を育む教育活動の在り方
～一人一人のよさを認め合い 挑戦する児童の育成を目指して～

2 主題設定の理由

(1) 社会的背景から

グローバル化や情報化など社会の急激な変化に伴う予測困難な時代をよりよく生き抜くためには、多様な価値を尊重・理解し、共に学んでいくことが必要である。また、学習指導要領前文には「一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」と記されている。さらに、文部科学省は教育課程部会の検討課題の中で、「子供たちの実情を踏まえ、自他の生命を尊重し、学習や生活、仕事に前向きに取り組む力を育てるためには、自尊感情や社会性を高めることが必要条件となる。」と述べている。このことから他者を尊重し合いながら理解し共に学ぶ「協働」や、自分のよさや可能性に気付く自尊感情について指導することはとても重要であるといえる。内閣府が行った「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成25年度）」では、自尊感情に相当する「私は自分自身に満足している」の項目において、日本の若者の平均値が 2.31（4点満点中）であるのに対して、日本を除く他国の平均値は3.07であり、日本の自尊感情は、国際的に見て低いという結果がわかる。

心理学者のシェイブルスは「自尊感情を育むためには学習への働きかけが有効であり、教員の学習指導は子供たちの自尊感情の向上に重要な役割を担っている」と述べている。全国学力・学習状況調査の結果からも「自分には、よいところがあると思いますか」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られたり、「先生に認められていると感じている」児童生徒の方が、自尊感情が高い傾向が見られたりした。以上のことから、学校教育と自尊感情を高めることは切り離すことができない課題であり、自尊感情を高めるには、他者と関わりをもって達成感や充実感を味わうなど、「協働」の中での活動が不可欠だといえる。

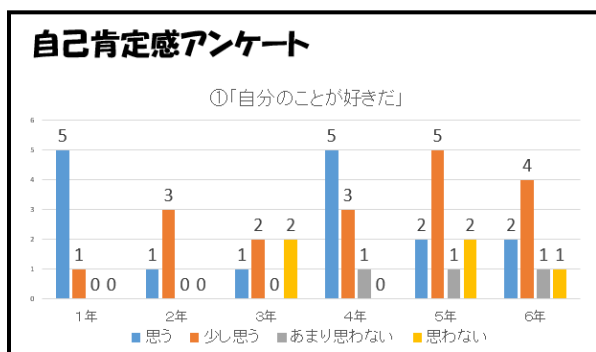
(2) 本校教育目標との関わりから

本校の学校教育目標「やさしく・かしこく・たくましく」の具現化に向けて「ともに遊び・ともに働き・ともに学ぶ 挑戦」を合言葉に教職員・児童が生活している。学校経営方針の中には、「思いやりの心を持ち、他に共感し、協働できることは自尊感情やふるさとへの愛情を育む重要な素質」と掲げており、協働や自尊感情を重要視している。子供たちが将来、社会を生き抜くためには、他者との関わりの中で、一人一人のよさを認め、個を大切にしたい教育、つまり自尊感情を協働的な学習を通して育むことが重要であるといえる。

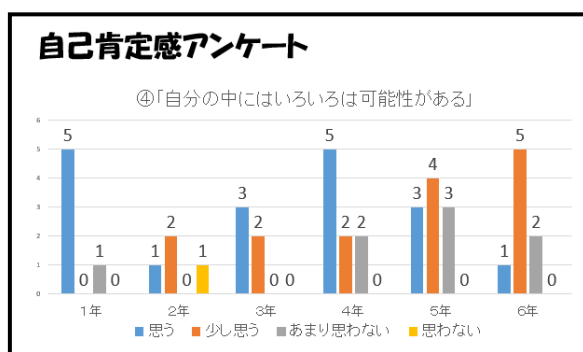
(3) 児童の実態から

本校は全校児童 30 名で、完全複式学級（1・2年、3・4年、5・6年）の編成である。他者を尊重し、多様な在り方を認め合う児童が多く、学年を問わず仲良く生活している。

資料1、2のように、令和4年度に本校で行った自己肯定感におけるアンケートの中では、「自分のことが好きだ」、「自分の中にはいろいろな可能性がある」の項目において、約3割の児童が消極的な回答をしており、授業においても、積極的に発表したり、他者に自分の意見を伝えたりすることができない児童が多く見られた。



資料1



資料2

学力面を見ると、令和5年度平戸市の標準学力調査の国語・算数の結果は、現3年生と6年生が平均を下回っていた。また、どの学年にも特別な支援を必要とする児童が在籍しており、学級内でも学力の2極化が見られ、学校全体を通して、基礎学力の定着が必要である。さらに、学習での役割が固定化しており、上位の児童が低位の児童に教える場面が多く見られ、低位の児童が活躍できる場面が少ないことも課題である。

(4) 主題の意味

以上の点から、自尊感情と学習指導には相関関係があり、学習指導の充実が児童の自尊感情を高めると考え、研究主題を「自尊感情を育む教育活動の在り方」、副主題を「一人一人のよさを認め合い 協働する授業をととして」として、1年目の研究を進めてきた。

しかし、研究を進めていくうちに、協働学習を中心とした授業だけでは、指導法の研究になったり、児童に関わる教職員が担任だけだったりするなど、多くの課題が見られた。そこで、全ての教職員が全ての児童と関わりながら、自尊感情を高めていくことを2年目のテーマとし、副主題を「一人一人のよさを認め合い 挑戦する児童の育成を目指して」と設定した。副主題に記す「挑戦」とは、教育活動全体の中で、児童がさまざまな活動に積極的に挑戦していくゴールの姿であり、児童一人一人のよさを全ての教職員が見つけ、認めていく教職員の「挑戦」も含んでいる。

3 研究の全体構想

(1) 研究視点

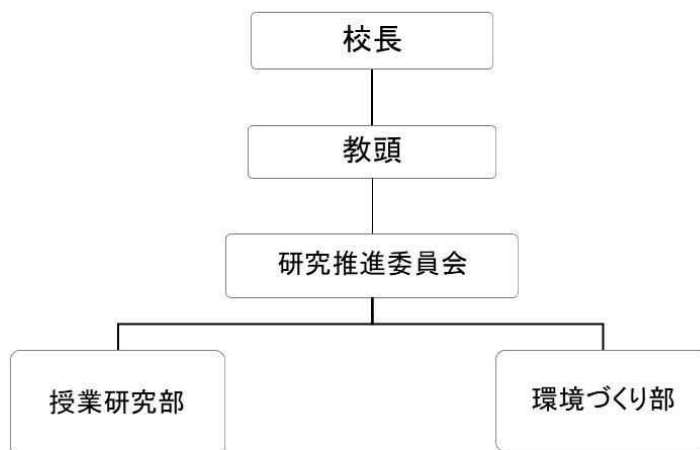
個を大切にしたい授業改善や他との関わりを大切にしたい協働的な学習を行うこと、また、一人一人が学級への所属感を深める環境づくりを取り入れた教育活動を展開すれば、自尊感情を高めることができ、何事にも自信をもって取り組む児童の成長につなげることができるであろう。

(2) 研究内容

- ① 個を大切にしたい授業改善・他との関わりを大切にしたい協働的な学習
- ・児童にあった課題
 - ・教具・教材・ICT 機器の活用
 - ・学習形態の工夫
 - ・学習のユニバーサルデザイン化

- ② 一人一人が学級への所属感を深める環境づくり
- ・児童会活動の重視
 - ・掲示物等、校内環境の整備
 - ・一人一人が活躍できる学校行事の工夫
 - ・メディアコントロールチャレンジによる生活習慣の見直しや確認

(3) 研究組織



4 年間計画

回数	学期	月	日	曜日	会種	内 容
1	1	4	4	木	推進委員会	令和6年度の研究について①
2		4	18	木	全体会	令和5年度研究の概要説明
3		4	25	木	全体会	令和6年度の研究について②
4		5	30	木	全体会	各部の取組
5		6	6	木	全体会	ムーブノートの活用について 学映システム
6		6	20	木	全体会	オクリンクの活用方法について 学映システム
7		6	26	水	全体会	オクリンクプラスの活用方法について ベネッセ
8		7	4	木	全体会	各部の取組
9		8	8	木	全体会	アンケートの考察
10		8	9	金	全体会	指導案検討(3・4年特別活動) アンケートの考察報告
11	2	9	5	木	全体会	研究発表会指導案検討(5・6年算数科)
12		9	10	火	全体会	ファミリープログラム
13		9	12	木	全体会	研究授業・授業研究会(3・4年特別活動)※市教委指導
14		9	26	木	全体会	各部の取組
15		10	10	木	全体会	研究集録作成準備
16		10	11	金	全体会	原稿作成(研究概要 指導案 アンケート結果等)
17		10	17	木	全体会	プレゼンリハーサル
18		10	31	木	全体会	平戸市指定研究発表会 準備
19		11	1	金	全体会	平戸市指定研究発表会
20		11	21	木	全体会	平戸市指定研究発表会振り返り
21	3	1	23	木	全体会	2年間の研究の総括
22		2	6	木	全体会	次年度の研究について

メモ

II 研究の取組

II 研究の取組

1 自尊感情測定のためのアンケートの実施

(1) 自尊感情アンケートの種類

ローゼンバーグの自尊心尺度

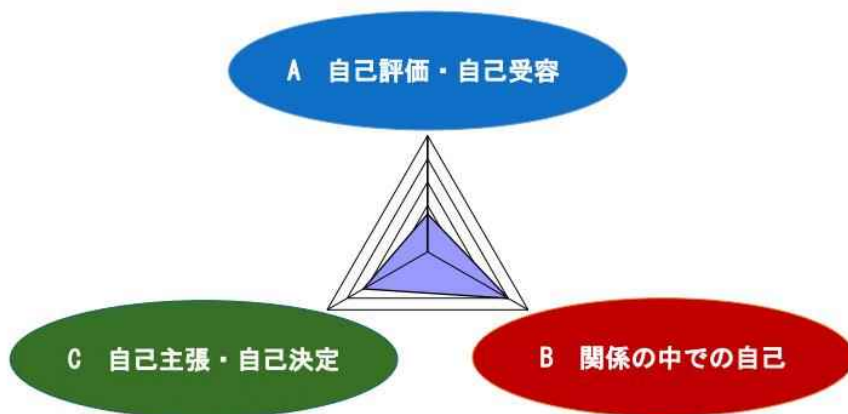
アメリカの心理学者ローゼンバーグの自尊心尺度が古くから、世界では使われている。しかし、この尺度は、日本の文化とはなじまない側面があり、日本人を対象にすると結果が低くなるとも言われ、また、資料3のように質問内容には、「私は自分を役立たずだと感じる。」、「自分を失敗者だと思いがちである。」など、学校現場にはふさわしくない言葉もあり、これを小学生に使用するには難しいと考えた。

1. 私は自分に満足している。
2. 私は自分がだめな人間だと思う。(R)
3. 私は自分には見どころがあると思う。
4. 私は、たいていの人がやれる程度には物事ができる。
5. 私には得意に思うことがない。(R)
6. 私は自分が役立たずだと感じる。(R)
7. 私は自分が、少なくとも他人と同じくらいの価値のある人間だと思う。
8. もう少し自分を尊敬できたらと思う。(R)
9. 自分を失敗者だと思いがちである。(R)
10. 私は自分に対して、前向きな態度をとっている。

資料3

東京都版 自尊感情測定尺度

東京都の自尊感情測定尺度では、資料4のように低学年、高学年用に質問紙を用意してあり、それらの結果を踏まえた指導の方向性が示されるという利点がある。質問は、3つの視点で点数化される。「A 自己評価・自己受容」、これは自分を肯定的に認めることができる尺度として、「B 関係の中での自己」、これは、周りに役に立っていることに気付く尺度として、「C 自己主張・自己決定」、これは、自分の可能性について気付くことができる尺度として分類でき、児童の実態を把握することができる。そして、その結果をもとに、一人一人の児童の傾向や、指導の方向性がタイプ別で示される。



A 自己評価・自己受容

自分のよさを実感し、自分を肯定的に認めることができるようにする。
この観点は、教師との関係において影響が大きいことから、教師からの評価や言葉かけによる効果が期待できる。

B 自己主張・自己決定

多様な人との関わりを通して、自分が周りの人に役立っていることや周りの人の存在の大きさに気付くようにする。
学習に対する意欲や良好な友人関係においての影響が大きいことから、学習や友人関係の構築についての支援による効果が期待できる。

C 関係の中での自己

今の自分を受け止め、自分の可能性について気付くようにする。
学校では進路指導においての影響が大きいことから、キャリア教育などによる指導の効果が期待できる。

【自尊感情測定尺度（東京都版）】

高学年用

質問に対して、自分の気持ちに近い数字に○をつけてください。

「あてはまる」場合は4、「どちらかといえばあてはまる」場合は3、「どちらかというにあてはまらない」場合は2、「あてはまらない」場合は1を○でかこんでください。

A 自己評価・自己受容	私は今の自分に満足している
	私は自分のことが好きである
	自分はダメな人間だと思ふことがある
	私は自分という存在を大切に思える
	私は今の自分は嫌いだ
	自分には良いところがある
	自分は誰の役にも立っていないと思う
	私は人と同じくらい価値のある人間である
B 関係の中での自己	人の意見を素直に聞くことができる
	私は人のために力を尽くしたい
	私はほかの人の気持ちになることができる
	私には自分のことを理解してくれる人がいる
	人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことには責任を持って取り組む
	自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している
	私には自分のことを必要としてくれる人がいる
C 自己主張・自己決定	人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる
	自分の中には様々な可能性がある
	私は自分の判断や行動を信じることができる
	私は自分の長所も短所もよく分かっている
	私には誰にも負けないもの（こと）がある
	私は自分のことは自分で決めたいと思う
	私は自分の個性を大事にしたい

資料4 東京都自尊感情測定尺度（高学年用）

(2) アンケート実施期間

山田小学校独自の自尊感情尺度を作ること考えたが、ABC という3つの尺度に分類ができる東京都版の自尊感情尺度を本校では採用することにした。そして、本校でもこの尺度を使い児童の実態を確認した。

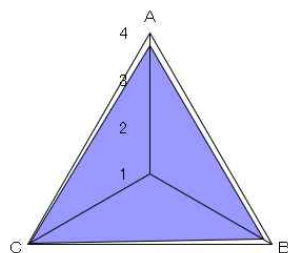
全児童を対象に1回目を令和5年6月に、2回目を令和6年2月に、3回目を令和6年7月に実施した。質問項目は低学年と高学年に分かれており、それぞれ22項目に対して4件法尺度で回答する。各学年の1回目の結果は下記のレーダチャートのとおりである。また、本校では東京都版自尊感情尺度に加えて、質問項目によっては自由記述ができる欄を設けた。

(3) アンケート結果

学年のアンケート結果

1年生

1回目

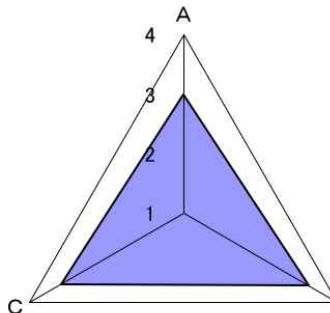


	1回目	2回目	3回目
A 自己評価・自己受容	3.72		
B 関係の中での自己	3.79		
C 自己主張・自己決定	3.93		

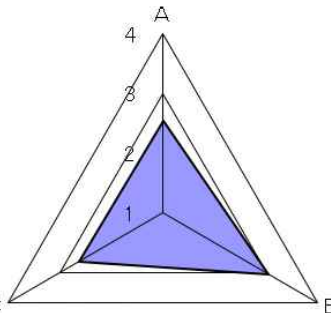
A、B、C の3つの観点すべてにおいて、高い数値であった。低学年は、自己を客観的に見ることができないため、自己評価力が十分に身に付いておらず、全体的に高い数値となったと捉えることができる。

2年生

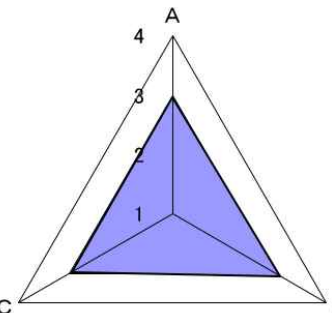
1回目



2回目



3回目

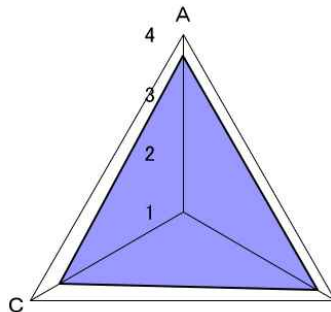


	1回目	2回目	3回目
A 自己評価・自己受容	3.00	2.54	2.96
B 関係の中での自己	3.43	3.05	3.10
C 自己主張・自己決定	3.38	2.62	2.95

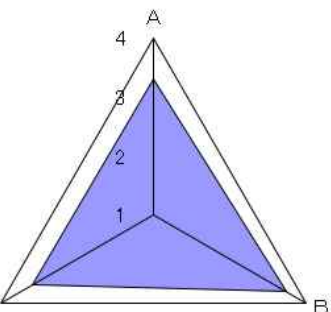
1回目と2回目を比較すると A、B、C の3つの観点で低下していたが、3回目では3つの観点が上昇している。児童数3人で、アンケート結果が低い児童がおり、個別対応が必要である。

3年生

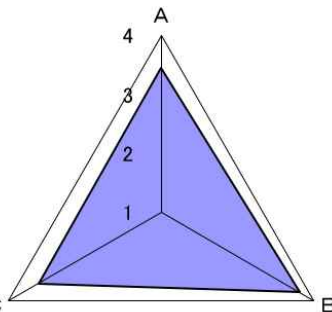
1回目



2回目



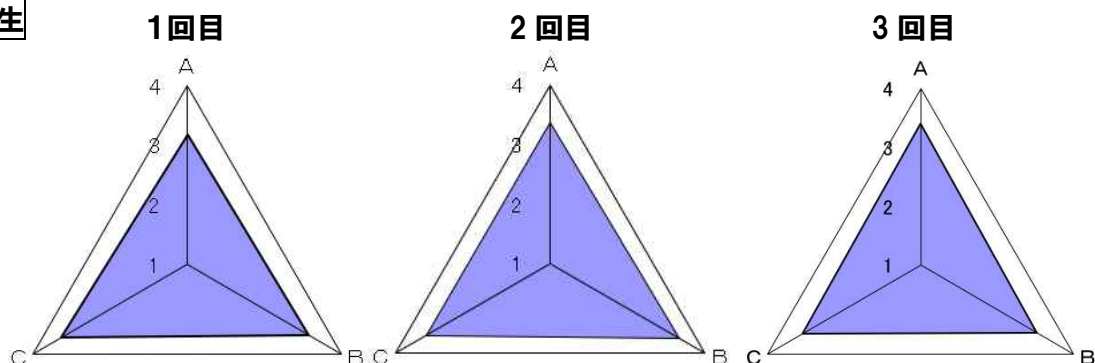
3回目



	1回目	2回目	3回目
A 自己評価・自己受容	3.65	3.29	3.46
B 関係の中での自己	3.64	3.60	3.71
C 自己主張・自己決定	3.43	3.36	3.40

1回目と2回目では3つの観点が低下していたが、3回目では3つの観点が上昇している。特に、Bの「関係の中での自己」は、3回目がもっとも高くなっており、集団の中での個々の良好な関係性が構築されてきていると捉えることができる。

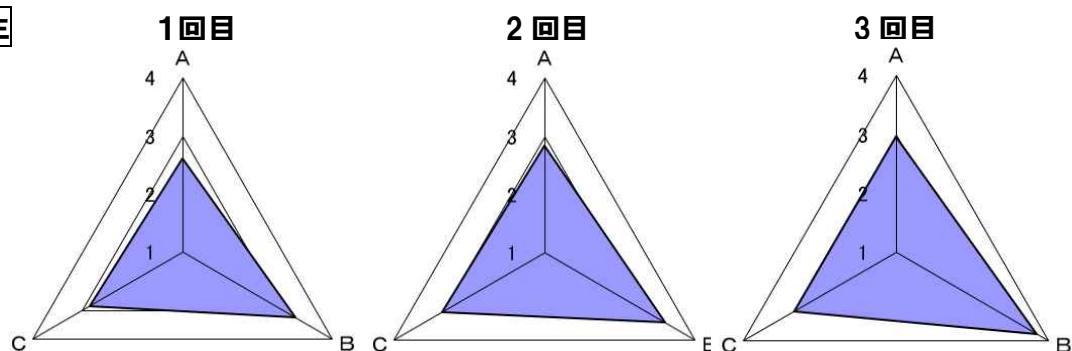
4年生



	1回目	2回目	3回目
A 自己評価・自己受容	3.19	3.38	3.41
B 関係の中での自己	3.36	3.50	3.29
C 自己主張・自己決定	3.46	3.39	3.21

全体的にバランスのよい結果となっている。A の「自己評価・自己受容」が最も上昇しており、自分を肯定的に捉えることができる児童が増えていることが分かる。

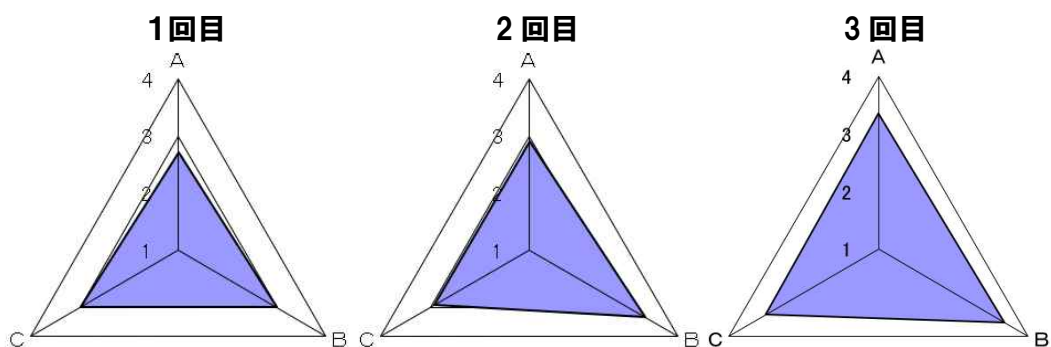
5年生



	1回目	2回目	3回目
A 自己評価・自己受容	2.63	2.84	2.97
B 関係の中での自己	3.25	3.39	3.75
C 自己主張・自己決定	2.86	3.04	3.00

A、Bの2つの観点で回を重ねるごとに上昇している。特に、Bの「関係の中での自己」は、3回目がもっとも高くなっており、集団の中での個々の良好な関係性が構築されてきていると捉えることができる。

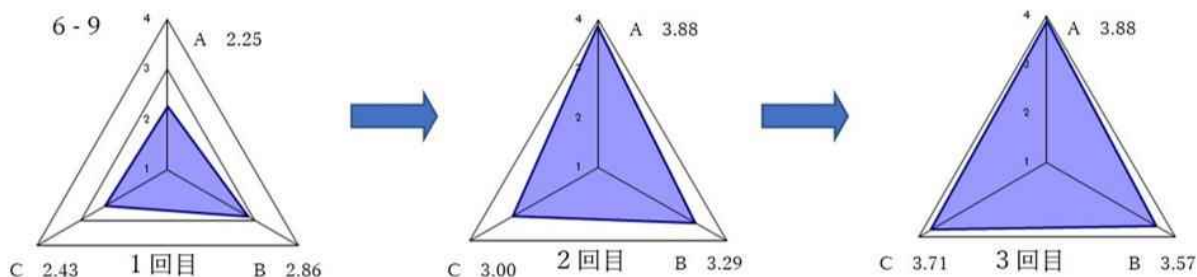
6年生



	1回目	2回目	3回目
A 自己評価・自己受容	2.72	2.90	3.36
B 関係の中での自己	2.98	3.33	3.52
C 自己主張・自己決定	2.98	2.90	3.27

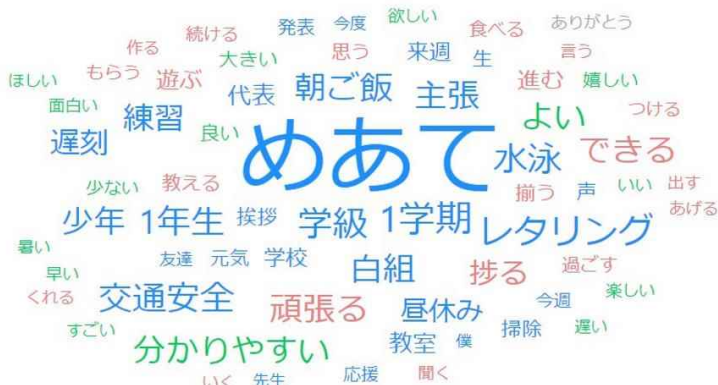
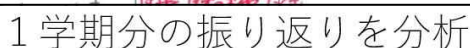
A、B、C3つの観点において、6年生が最も上昇の幅が大きく、バランスのよい結果になっている。さまざまな取組を通して、学校のリーダーとして自信をもって取り組んできた成果であると捉えることができる。

個人のアンケート結果



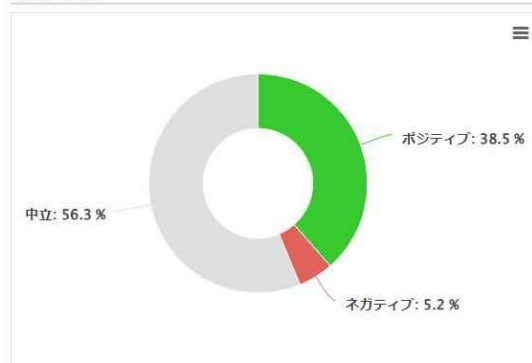
資料5は児童が1学期に書き溜めためあての振り返りをデータ化し、テキストマイニング(定型化されていない文章の集合であるテキストデータを分析し、有用な情報を抽出する手法)で分析した結果である。中心に「めあて」があるように、常にめあてを意識して生活したことが分かる。また、資料6のポジネガ分析(与えられたテキストにポジティブな発言が多いか、ネガティブな発言が多いかの度合い)のように、ポジティブな振り返りをしていることが分かり、感情も「喜び」の振り返りが多く、1学期前向きに生活した様子が窺える。

7/17 (水)	今日はひさしぶりに学級全員そろいました とても喜んで、やはりさんいんそろって よかったです。	もうですね、 とても楽しい 学級ですね。
7/19 (木)	今年の1学期月は、少年の主張、田長なとい いようなかけんができました。 して、てるのはとてもきんぎょ こともあるんだ。ちとあまひい	隆太郎くんへ 田長、先生、おめでとう
めあて(学習・生活)		
／ (金)	生活では大きい声で発言した てよかったです。1学期月は、勉強 めで2学期月は、もて挑戦して	作る 続ける 大きい ほしい もらう 遊ぶ 代表 面白い 練習 良い 遅刻



- 9 -

ポジネガ

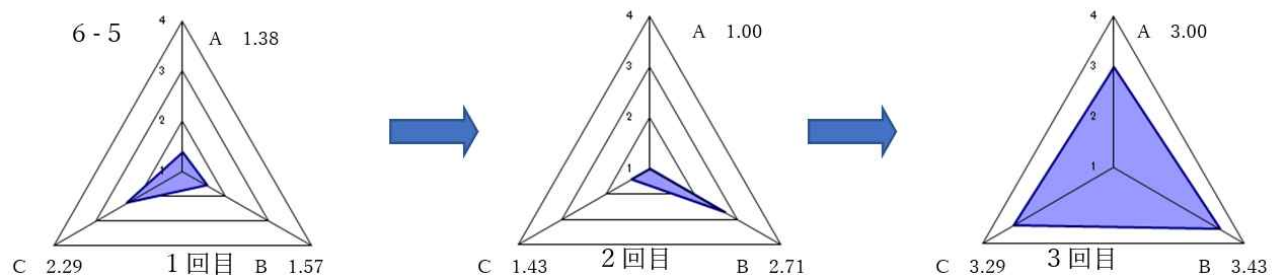


感情



資料6 6年男子ポジネガ分析結果

6年 女児

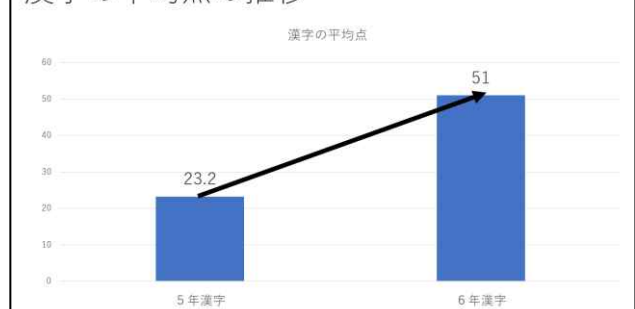


1年時から、遅刻や欠席が目立ち、何事に対しても後ろ向きの発言が多い児童であった。学力では支援が必要で、これまでなかなか授業中に活躍することが難しい実態であった。5年3学期頃から、学習を中心に級友と交流する中で認められたり、称賛されたりする機会が増え、何事にも意欲的に挑戦するようになってきた。特に、積極的に地域のボランティアに参加する姿が多く見られ、学校だけでなく地域の方からの称賛を受ける機会も増えた。資料7のテキストマイニングの結果では、級友の名前が多く、級友との関わりが自尊感情の高まりに大きく関係していることが分かる。また、資料8のように、自尊感情の高まりが全てではないが、学力が大幅に向上している。



資料7 6年女子児童テキストマイニング分析結果

漢字の平均点の推移



資料8 6年女子児童漢字の推移

2 研修の実施

研究1年目は、自尊感情について、教職員の研鑽を積むために、外部講師を招いた研修を行った。1回目は東京都教職員センターの川島指導主事に自尊感情について、2回目は木村栄指導教諭に特別支援教育及びユニバーサルデザインについて、3回目は長崎大学大学院教育学研究科の松下裕之非常勤講師に人権教育について講義を行っていただいた。各研修で指導していただいた内容や実践は以下の「授業の実践」、「授業外の実践」で紹介する。



新教委訪問モデルプラン 東京都教職員研修センター
自尊感情や自己肯定感を高める教育の推進のために
令和 年 月 日 ()

演習3

以下の資料は、小学校の特別の教科 道徳の学習指導案を一部抜粋したものです。
リーフレットなどを参考にしながら、「学習内容」や「指導方法」で高める観点から、本時の自尊感情や自己肯定感を高めるための指導上の留意点等について考えましょう。

1 主題名
「自分が目指すところまで」(A 希望と勇気、努力と強い意志)

2 ねらいと教材
ねらい 目標を立て、希望や夢に向かって、諦めずに努力しようとする心構を育てる。
教材名 「自分の夢や目標に向かって」(東京都教育委員会『心たくましく』P.96～97)

3 教材について
はアニストである辻井伸行さんとその恩師である川上昌裕先生とのノンフィクションストーリーである。生まれつき目が不自由な辻井さんは、幼い頃から音楽に楽しみ、6歳のときに川上先生と出会う。辻井さんの才能を最大限に引き伸ばすために、独自の指導法を考えていった川上先生。課題を見ることができない辻井さんに「読解みテープ」を作成し、指導を続ける。次から次へと難しい課題に挑戦する辻井さんに川上先生は驚かされ、中学3年生で「国際コンクールに出場したい」という大きな目標を話したことにさらに驚かされる。辻井さんは、努力を積み重ね、本書には攻めが難しい難曲を完璧演奏し、賞を受賞する。

東京都教職員センター川島指導主事による自尊感情を高める教育について(オンライン研修)



学年で統一した宿題

学年で宿題を統一することで、担任の負担を軽減したり、学級による進度の確認や調整をしたりすることができ、また、保護者間に発生しやすい宿題格差などによる不感傷等も起きにくくなる。

学年	成功	失敗	選手	最高	同	手	選	説明
1年								
2年								
3年								
4年								
5年								
6年								

左利き用

学年	成功	失敗	選手	最高	同	手	選	説明
1年								
2年								
3年								
4年								
5年								
6年								

右利き用

木村栄指導教諭による特別支援教育及びユニバーサルデザインの研修



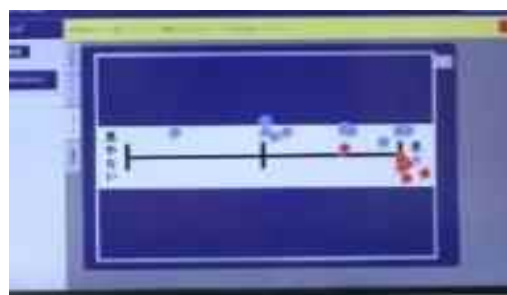
長崎大学大学院教育学研究科・松下裕之非常勤講師による人権教育

3 授業での取組

「道徳科・6年 上村さんのちょうせん」

6年の道徳科では、ムーブノートを活用した授業を行った。

アンケートを導入と終末で行ったが、資料9のように、ムーブノートのスタンプ集計を使用することで、児童の考えの変容を教師と児童が即座に確認できた。また、児童がノートに自分の意見を書いた後に、それぞれに肯定的な意見を書く時間を設けた。「〇〇さんの●●の部分は素敵だね。」など、直接相手への言葉かけがあり、自信をもって、その内容を発表する姿が見られた。45分の中で友達と意見を交換し、認め合う



資料9 スタンプ集計

ことができた。終末では、あきらめそうな自分へのメッセージを発表し、学級全員が拍手を送るなど、一人一人が輝き、自尊感情を高める授業となった。課題として、ムーブノートを多用することで、授業前半は児童があまり発言することがない展開となった。

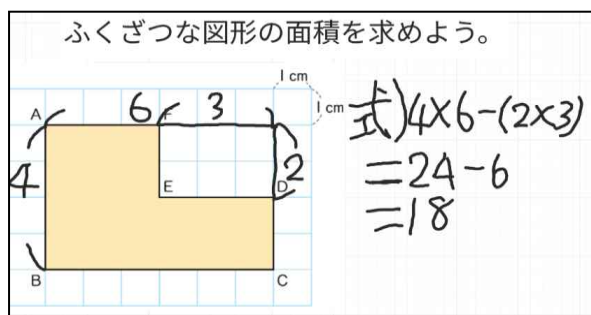
授業での取組では自尊感情を高める手立てとして、教材・教具の工夫、指導形態の工夫を行った。主にICT機器の活用として、ムーブノートやオクリンクを中心に教材を作成した。以下、研究授業で使用してのICT機器のメリットとデメリットを記載する。

メリット	デメリット
- 児童同士もパソコン上で全員の意見を素早く把握できる。さらにコメント等も自席から送ることができ、自分の意見への自信がもてる。 - アンケートの事前と事後など、簡単に集計ができ、終末で比較が容易にできる。	- パソコンのスキルの差が出る。 - じっくりと考える時間が取れない。

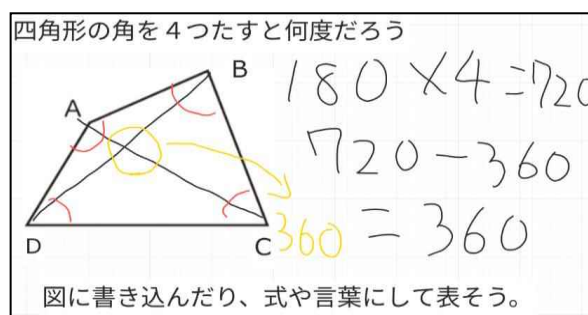
4・5年生 算数科 「4年：面積のはかり方と表し方 5年：図形の角を調べよう」

4・5年生の算数科の学習では、オクリンクを使った学習を行った。資料10のように、学習の終末に本時の振り返りをオクリンクにまとめ、次時にそのカードを使って、前時の振り返りを行った。

支援が必要な児童も前もって自分のカードを準備しておくことで、意欲的に学習に参加することができたため、多くの児童が積極的に前に出て説明を行うことができた。また、自力解決や練習問題の際もオクリンクを活用することで、児童の進み具合を素早く把握することができ、適宜、指導を行うことができた。



4年



5年

資料10 児童がオクリンクを使って作成した学習のまとめの一部

4・5年生 特別活動 「宿泊学習がんばった会」

4・5年生では、宿泊学習終了後に、友達のがんばったところ、良いところを伝え合う活動を行った。活動当初は、友達から褒められてうれしいという感想が多かったが、「次の行事では、友達の〇〇な気持ちがうれしかったとか書いたらどうかな?」と発言する児童もあり、具体的な良さを認め合えるようになってきている。行事の後や学期末などに繰り返し行っている。



4 授業外での取組

授業外での取組では、校内の掲示の工夫として、互いに認め合ったり、友達の良さを見つけたりする取組を行った。また、ユニバーサルデザインの視点として、自主学習の様式を統一したり、コグトレを導入したりした。特に授業外での取組では、「やりっぱなし」、「させっぱなし」にせず、PDCAC サイクル※¹を意識して行った。活動後は児童ヘフィードバックを行い、次のめあてや目標の設定、動機づけにつなげた。

※¹ PDCACサイクルとは、PDCAサイクルに取り組んだあと、さらにCheckを重視した本校独自のサイクルである。

「全校での活動:笑顔いっぱいワンダフォー」

掲示教育の工夫として全校児童の「素敵なおところ探し」を行った。2学期の代表委員会において、児童から「友達の良いところを探す活動をしたい。」という提案があり、デザインや方法などを児童が主体的になって決定をした。児童が書く内容は、①友達の良いところ、②自分のよいところ、③学校のためにしたことの3つに分類をして書くようにした。自分のがんばりを自分で認めること、他者を意識すること、所属感を高めることに視点をおき、掲示教育を行うことができた。学級の友達だけでなく、異学年から互いを認め合うメッセージを書くことで、日頃と違う充実感を味わうことができた。また、自分たちで計画したものを進めていくなど、児童が主体となって活動することができた。掲示されたメッセージを校内放送で発表したり、年度末には児童それぞれのメッセージを集めたカード集を作成して児童に配布したりするなど、活動の意欲付けにつなげた。



代表委員会の様子



掲示の様子

「笑顔いっぱいワンダフォー」

- P 自己評価、他己評価できる取組をしたい。
- D 自分、友達、学校のために行った取組について記入する。
- C 記入状況を確認する。
- A コメントを放送で発表したり、1冊のファイルにまとめ、児童に返却したりする。
- C 記入状況とコメント内容を確認、教師の励ましの言葉を記入する。



笑顔いっぱいワンダフォーの掲示



年度末に作成したメッセージカード集

【学期のめあてと一日の振り返り】

児童がめあてや目標への達成感を感じ、視覚的に達成できたことがわかるようにするために、学期のめあての立て方や振り返りの工夫を行い、全校で統一した。

めあての立て方の工夫では、学期の初めに、資料11のように一覧リストを配付し、児童が自分の実態に応じためあてを選べるようにした。振り返りの工夫では、資料12のように、毎日、児童がめあてや生活について振り返りを行い、全校職員で分担しコメントを記入した。また、資料13のように、児童はめあてを達成すると、次のめあてに更新できるようにした。他者との比較ではなく、自分のペースで、次のめあてを選べるようにしている。また、担任だけでなく、多くの職員からコメントをもらうことで、達成感に加え、次のめあてへの意欲の向上へとつながった。これに加え、月末には生活目標・給食目標の振り返りカードを追加し、1カ月の生活を振り返ることも行った。

「生活目標・保健目標・給食目標」

- P 毎月、目標をもって生活してほしい。
- D 月毎に生活目標、保健目標、給食目標を設定する。
- C 全校朝会で月目標を確認したり、月末に各学級で振り返りをしたりする。
- A 取組結果を放送で発表したり、できていない状況について、振り返りを行う。
- C 記入状況とコメント内容を確認する。

【高学年ちょうせん表】

山小ちょうせん表 授業中のとりくみ	
自分から質問する	☐
発表を○回以上する	☐
発表は最後まで話す	☐
発表する人の顔を見る	☐
話し合いのとき○回は発言	☐
発表は相手に聞こえる声で	☐
次の授業の準備をする	☐
複式学習で自分たちで進める	☐
ノートをていねいな字で書く	☐
行事のときは進んで役割に挑戦	☐

山小ちょうせん表 生活でのとりくみ	
ゲームやテレビは1日○分	☐
○時までに寝る準備をする	☐
毎日、自分で起きる	☐
朝ご飯を食べる	☐
ハンカチ・ティッシュを身につける	☐
自分からあいさつする	☐
笑顔であいさつする	☐
大きな声であいさつする	☐
地域の人にあいさつする	☐
1分前着席を心がける	☐
外で元気に遊ぶ	☐
友達のいいところを伝える	☐
当番の仕事を進んでする	☐
言葉つかいに気をつける	☐
友達に優しい態度で接する	☐
低学年のお手本になる	☐

山小ちょうせん表 家でのとりくみ	
宿題を忘れずにする	☐
毎日、○時間勉強する	☐
宿題は8時までにする	☐
ローマ字日記を毎日する	☐
自主学習を工夫する	☐
週○日、○分、自主学習をする	☐
文字をていねいに書く	☐
音読を大きな声でする	☐
その日の学習を復習する	☐
テストのやりなおしを家でする	☐
次の日の準備はその日にする	☐
筆箱の中身を確認、えんぴつをとく	☐

【低学年ちょうせん表】

山小ちょうせん表

じゅぎょうでのとりくみ

わからないことをしつもんする ☐

はっぴょうを〇かいする ☐

はっぴょうはさいごまでする ☐

はっぴょうはひとのかおみて ☐

はなしあいでもかいのはっぴょう ☐

はっぴょうはきこえるこえです ☐

つぎのじゅぎょうのじゅんぴをする ☐

ふくしきのがくしゅうをすめる ☐

ノートをていねいなじでかく ☐

ぎょうじですんでがんばる ☐

山小ちょうせん表

いえでのとりくみ

しゅくだいをする ☐

まいにち、〇ふんべんきょうする ☐

しゅくだいは〇じまでにする ☐

カタカナのれんしゅうをする ☐

じしゅがくしゅうをする ☐

〇日、じしゅがくしゅうをする ☐

もじをていねにかく ☐

おんどくを大きなこえです ☐

その日のがくしゅうをふりかえる ☐

テストのやりなおしをする ☐

あしたのよういはまへの日にする ☐

ふでばこのなかをかくにんする ☐

えんぴつをまいにちとぐ ☐

山小ちょうせん表

せいかつでのとりくみ

ゲームやテレビは1日〇ふん ☐

〇じまでにねるじゅんぴをする ☐

まい日、じぶんでおきる ☐

あさごはんをたべる ☐

ハンカチティッシュをみにつける ☐

じぶんからあいさつする ☐

えがおであいさつする ☐

大きなこえであいさつする ☐

ちいきの人にあいさつする ☐

1ふんまえにすわる ☐

外でげんきにあそぶ ☐

ともだちのいいところをつたえる ☐

とうばんのしごとをする ☐

ことばづかいにきをつける ☐

ともだちにやさしくする ☐

資料 11 児童に提示した学習と生活の挑戦表

日付	今日のふりかえり(自分・友達)
7/15 (月)	「実験であれこれ」が上手にできておや、徳利さん友達も学校ではいかにうまいか死ななはりきうでやわ、高学年として他学年の手本にたてを意識してやってみようかな、いつもおれがとく!! たけな先生
7/16 (火)	
7/17 (水)	今日、漢字テストで92点を取りました。たけなももう少し勉強すれば点数が上がるので、まちがえた漢字はやりなおして覚えたいです。
7/19 (木)	1学期は、運動会の練習をがんばって本番でもその力を発揮できました。フールでも友達と協力して去年より泳げるようになりました。
めあて(学習・生活)ふりかえり	
7/19 (金)	授業中も先生がいないときは、伊勢ちゃんや森田君を中心に進めていました。彩唯ちゃんや乃瑠ちゃんや美雪ちゃんも手を上げていました。陸太朗君といっしょに料理も黒板にがいり、智花ちゃんはおかしい人を教えるなどみんな成長していました。3学期もいっしょにがんばります。

さうに努力を
はげにする姿が
とてもいいです!

徳利さんへ
1学期もよくがんばり、
いまだよりもたくさん人と
友達に徳利さんの力
を貸すようにがんばり
ます。

仲たふはるに
きく、
きくなどにも挑戦する
姿は本当にがんばり
です。2学期も
一着にがんばり
ます。

今週のめあては
どれくらい
たっせいできたかな?

今月の生活もくひょう

今月の保健・給食もくひょう

資料 12 ふりかえりカード

名前

自己紹介

料理が大好き
ゲームが大好き
きれいな女子

学習の目標

音読を大きな声で読む

生活の目標

10時までにはねて、7時までには起きる

資料 13 児童が立てためあて

ユニバーサルデザインの視点

自尊感情を高める方法の1つとして、前述のように学力への働きかけが有効であると言われている。学力向上や学力の定着を目標として、資料14のように自主学習の様式を全校で統一した。漢字、計算、アルファベット、作文、意味調べなど、1枚のプリントで、少しずつ毎日学習を積み重ねることで、学習の定着を目標としている。様式を統一して取り組んだが、内容や量については、学級や個人で見直しを行い、改善を図った。

また、「コグトレ」を導入し、認知機能強化トレーニングを行った。認知機能トレーニングは、自尊感情に関連する「自己効力感」を高めることが期待される。コグトレは学習の土台である認知機能を児童がゲーム感覚で楽しみながらトレーニングすることができ、主に朝の時間等に積極的に活用している。

「自学」

- P 自分で自学の内容を決めることができるようになってほしい。
- D 自学の型を提示する。
- C 自学の取り組み内容を確認する。
- A 毎日、振り返りを行い、励ましのコメントを書く。
- C 自学の量、自学の内容、自学の時間を工夫する。

資料 14 自主学習の様式

「メディアコントロールチャレンジ・ほけんだより」

「メディアコントロールチャレンジ」

- ＜自尊心を高める項目について＞

- | メティコン | | | | 「ありがとうと言ったできごと」 | | 保護者サイン | |
|---------------|-------------------|----------------|------------------|--------------------------------|---------------------------------|--|----|
| メティコン
守れた? | どれくらい
メティコン見た? | 何のおてつ
だいした? | 何時に寝て
何時に起きた? | ありがとう
と言った? | どのようなときに言った?
そのとき、どんな気持ちだった? | | |
| 記入前 | ○ | 時間 分 | おふろ
そうじ | 21時30分に
ねて
6時30分に
おきた | ○ | 山田さんが一緒に洗濯を手伝ってくれたときに「ありがとう」と言いました。手伝ってくれてうれしかったです。 | 山田 |
| 6/20
(※) | ○ | 時間 分 | おふろ
そうじ | 22時00分に
ねて
6時30分に
おきた | ○ | しょうき君がなげたボールを何度も
ひろってくれたときに「ありがとうと言
いました。とてもやさしいなと思いました。 | |
| 6/27
(※) | ○ | 時間 分 | おふろ
そうじ | 時 分に
ねて
時 分に
おきた | ○ | 伊勢七ちゃんが糸念合のバンプレットづくりを
わかりやすいようにしゅせいでしてくれている
ときに「ありがとう」と言いました。おかげで、とても
協力。おきなバンプレットができたよ。見やすいです! | |
- ☆保護者の方からのコメント☆
 メティコンがずまり、意識して、TV以外の自分の好きな事をしてあげて、頑張っていました。週に1回、お母さんと
 交流して下さる。時々17 交流して下さる。自分も意識して、メティコンに取り組んでいる。お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんな協力して、メティコンに取り組んでいます。お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんな協力して、メティコンに取り組んでいます。

- 17 -

ファミリープログラムの実施

自尊感情を高めるためには、学校だけでなく、保護者の協力が必要である。そこで、ファミリープログラムを活用し、これまでに2回、「自尊感情を育むための子供の肯定的な叱り方」などをテーマに設定し、保護者、教職員がグループを組み、研修会に参加した。子供を叱るときに、「〇〇しなさい」ではなく、「〇〇してくれるとうれしいな」など、自尊感情を大切にす叱り方を家庭と共有できたことは大変有意義であった。

また、学校保健委員会の取組として、「自己肯定感を育む子育て」と題して、長崎県立大学相談室スクールカウンセラー伊藤勢津子様にご講演いただいた。発達、思春期、睡眠と自尊感情の関わりについて、ご示唆いただき、保護者との共通理解を図ることができた。

「ファミリープログラム」

- P 家庭と学校が連携してよりよい教育を目指したい。
- D ファミリープログラムを依頼し、実践する。
- C 家庭と学校で、子供への肯定的な叱り方について共通理解を図る。
- A 学校だけで共通理解を図る。
- C 家庭と学校で、実践したことを懇談会で議題にする。



ファミリープログラムの研修会の様子



学校保健委員会の講演の様子

III 研究の成果と課題

III 研究の成果と課題

1 授業改善・協働的な学習について

(児童にあった課題、教具・教材・ICT 機器の活用、学習形態の工夫、ユニバーサルデザイン)

□成果

- ICT 機器を効果的に活用することで、児童が意欲的に活動し、主体的・協働的な学習へつなげることができた。また、児童が学習内容をまとめる過程で、Chromebook を活用してまとめることを通して、理解が不十分だったところを再確認することができた。発表でも活用できる場面が多くあり、自信につながった。
- かがやきタイムで、基礎計算プリントや児童の実態にあった課題に取り組んだり、全校で形式を揃えた自主学習ノートや本読み計算に取り組んだりすることで、基礎学力の向上につながった。
- 自分が設定した目標について、定期的に振り返ることで、スモールステップを踏みながら前向きに取り組むことができた。

□課題

- ICT 機器とノート等、デジタルとアナログをうまく使い分けていくことが大切である。
- 対話的な学習の場面では、活発な意見の交流に発展しないことがあった。
- これまで以上に自尊感情を高めていくためには、他教科との関連、家庭や地域との連携が必要である。

2 所属感を深める環境づくりについて

(児童会活動、掲示物、環境の整備、学校行事の工夫、メディアコントロールによる生活習慣の見直し)

□成果

- 掲示は山田小学校オリジナルのものを行うことができた。代表委員会と関連して取り組むことができ、自治的な活動になった。保護者にも記入してもらうなど、幅も広がりそうである。
- メディアコントロールカードには、「ありがとう」や「すてき発見」など優しく温かい言葉が記入されている。メディコンでの取組を学級や放送で紹介してもらうことで、より効果的になっている。また、保護者からの温かいコメントもやる気や自尊感情の向上につながっていると思う。

□課題

- メディコンカードの中で、遅くまで習い事がある児童(全校児童の4分の1)の睡眠時間が短いことがわかった。睡眠時間が自尊感情に影響を与えるという指摘もあるので、保護者へ生活習慣の見直しなどの周知が必要だと感じた。

3 研究全般について

□成果

- 自尊感情を高める様々な取組のなかで、様々な機会を通して認められる機会が多くなることで、積極的に挑戦する児童が増えた。また、学力の向上、自信をつけた姿、他者を思いやる姿、生活習慣の改善など、多くの児童の良い面が増えた。
- 本校の研究の内容は特別なことではなく、どの学校でも実施していける内容だと思う。特に、職員が意識を統一して取り組んだことが、児童の成長につながったと思う。
- 通信等で、家庭にも子供たちの目標に向けての取組を発信していくことで、保護者からも子供たちを認める声掛けが増えるなど連携を図ることができた。
- 自分なりの目標設定をし、振り返る機会を定期的に設けることで、達成した喜びをそれぞれ味わうことができている。また、振り返りのコメントを全職員で行うことで、全職員で児童に関わっている一体感が生まれた。

□課題

- 自尊感情が高まったかどうかの指標をどのようにするのか。アンケートの結果だけでは、自尊感情の高まりを評価することができない。評価が主観的になるので、難しい面がある。
- 学年内で、自己評価・自己受容が低い傾向の児童もいるので、自分のよさを認めて自信につなげる取組や自分が他の人の役に立っているという実感をもてるような場の設定、声かけ、称賛を続けていくようにする。

参考文献

- 東京都教職員研修センター(2008).自尊感情や自己肯定感に関する研究(1年次)
- 東京都教職員研修センター(2009).自尊感情や自己肯定感に関する研究(2年次)
- 東京都教職員研修センター(2010).自尊感情や自己肯定感に関する研究(3年次)
- 東京都教職員研修センター(2011).自尊感情や自己肯定感に関する研究(4年次)
- 東京都教職員研修センター(2012).自尊感情や自己肯定感に関する研究(5年次)
- 東京都教職員研修センター(2020).自尊感情や自己肯定感に関する調査研究(1年次)
- 東京都教職員研修センター(2021).自尊感情や自己肯定感に関する調査研究(2年次)
- 文部科学省(2019).みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編).文溪堂
- 小島道生(2013).発達障害のある子の「自尊感情」を育てる授業・支援アイデア.学研教育出版
- 杉田洋(2021).特別活動で学校が変わる.小学館
- 学校教育相談研究所(2015).『月刊学校教育相談』平成27年,1月号
- 鈴木健二(2021).学校経営に生きる5分でできる 小さな道徳授業1.日本標準
- 鈴木健二(2021).学校経営に生きる5分でできる 小さな道徳授業2.日本標準
- 鈴木健二(2023).学校経営に生きる5分でできる 小さな道徳授業3.日本標準
- 中島輝(2019).書くだけで人生が変わる自己肯定感ノート.SBクリエイティブ株式会社
- 内閣府(2013).我が国と諸外国の若者の意識に関する調査
- 広島大学附属東雲小学校(2024).新訂複式教育ハンドブック-今,改めて考える複式教育のよさと課題-東洋館出版社
- 櫻井茂男(2024).ウェルビーイングをデザインする小中学生の非認知能力.図書文化社

IV 指導案

□第3・4学年 学級活動学習指導案

P21～26

□第5・6学年 算数科学習指導案

P27～36

第3・4学年 学級活動指導案

令和6年11月1日（金）5校時
平戸市立山田小学校
第3・4学年1組10名
授業者 木寺 マキ子

1 題材 『なりたい自分に挑戦～未来の自分にステップアップ～』

学級活動（3）ア現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

2 題材について

（1）児童の実態

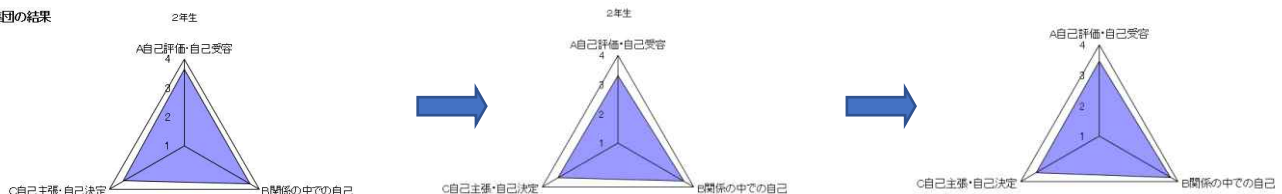
本学級の児童は、自分のよさに気付かず自信がもてなかったり、自ら目標を立て目標達成に向けて行動したりすることが苦手な児童が多い。令和5年度に実施した自尊感情に関するアンケートの結果では「先生の話聞けない、字が上手に書けない、忘れ物が多い」など自己に対して否定的な記述が見られた。

1学期において「学習・生活」の目標を実現させるために、より具体的なめあてを設定してきた。また、定期的に振り返ることで、達成に向けての手立てを考えたり、目標を達成した場合には、更なる目標を設定したりして継続することの大切さを意識させてきた。

自分の目標に向かって挑戦していく気持ちを高めるための一つの手段として、一日の終わりに、自分や周りの人について振り返り、記録する活動を継続している。教師から認められたり、励まされたりすることで自尊感情を高め、新たな挑戦へとつながることができるようになってきた。自分で立てた「学習・生活」の目標についても一週間ごとにフィードバックするようにしている。

【3年生 東京都版自尊感情尺度における3回分の結果】

集団の結果

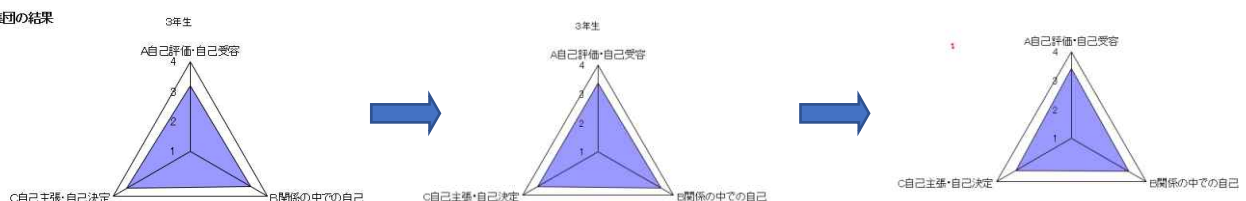


	1回目	2回目	3回目
A 自己評価・自己受容	3.65	3.29	3.46
B 関係の中での自己	3.64	3.60	3.71
C 自己主張・自己決定	3.43	3.36	3.40

中学年という発達段階において自己を客観視できていないことも考えられるが、全体的に見て安定している。学習において支援を要する児童もいる中で「B 関係の中での自己」においてわずかではあるが、ポイントの上昇がみられる。毎日の振り返りの場面で自己の成長を実感したり、周りの友達から認められたりする場を設定したことが効果的であったと実感している。

【4年生 東京都版自尊感情尺度における3回分の結果】

集団の結果



	1回目	2回目	3回目
A 自己評価・自己受容	3.19	3.38	3.41
B 関係の中での自己	3.36	3.50	3.29
C 自己主張・自己決定	3.46	3.39	3.21

「A 自己評価・自己受容」がもっとも上昇した。「B 関係の中での自己」、「C 自己主張・自己決定」においては低下しているものの、微減にとどまっている。BとCが低い理由として、4人という少人数で人間関係が固定化されていることが原因の一つと考えられるが、行事などにおいて責任を果たせるような役割を設定し、友達との関わりの中で自己受容できるようにしている。

※アンケート実施日【1回目（R5.6月）、2回目（R6.2月）、3回目（R6.7月）】

(2) 題材設定の理由

本題材は、個々の児童の将来に向けた自己実現に関わるものであり、一人一人の主体的な意思決定に基づく実践につなげることをねらいとしている。学習指導要領では、学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」において資質・能力を育成することとして『自己の生活や学習の課題について考え、自己への理解を深め、よりよく生きるための課題を見だし、解決のために話し合って意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動することができるようにする。』と示されている。

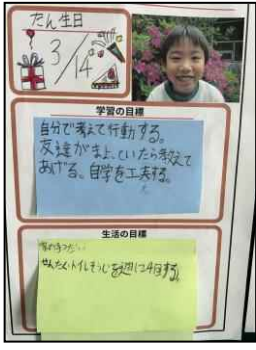
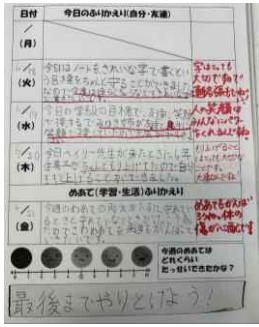
自分自身のよさや成長に気づき、なりたい自分に近づくために、どのような取組をするとよいかを考え、具体的な行動目標を設定することで、なりたい自分に少しずつ近づき自己理解を深めることができることを目指して、本主題を設定した。

そのために、話し合いを通して、他者の意見も踏まえながら、自分自身がかんばることを意思決定できるようにしたい。集団の中で多くの人と関わりながら、自分のよさや可能性に気づき、よさを生かして様々な役割を果たしたり、努力を繰り返したりすることの大切さについて考えることを通して主体的に行動できる児童を育成することができると思う。

3 第3学年及び4学年の評価基準

観点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通した思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価基準	働くことや学ぶことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の生活や学習への課題について考え、よりよく生きるための課題を見だし、解決のために話し合って意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら、主体的に行動しようとしている。

4 学習過程

過程 学習	学習内容	実践活動
①課題・確認	・自分のよさについて自分を知る。 ・自分のよさについて他者から教えてもらう。	・今日のふり返り（ステップ・アップ） ※一日過ごして頑張ったこと、嬉しかったこと 友達のよかった所などを記録する。 ・帰りの会での認め合う活動を行う。 (いいこときりりん) ・全校での他者を認め合う活動を行う。 (ワンダフォーの掲示板)
②③解決方法等の話し合い 解決方法の決定	・自己理解を基にして、自分の目標を設定する。 (話し合い→個人目標の意思決定) ※学期初めの4月・9月・1月に自己の目標を設定する。	・目標を立て、振り返りカードで振り返り、今後の見通しをもつ。 
④決めたことの実践	・週末にめあての達成状況を確認し、達成できている場合は新たな目標を設定し、次なる課題解決に向けて考える。 ・1週間の自分の行動を数値目標で確認する。 ・11月：話し合いを通して他者からの評価をもらいながら、成果や課題を明らかにし、次の課題解決に向けて行動する。(本時)	・保護者と連携を図りながら、目標の設定や、達成するための手立てを考える。  ・教師のコメント ・他の先生方からのコメント ・保護者からのコメント
⑤振り返り	・振り返りをして、自分のよさや成長に気付く。 ・目標の再設定を行う。 ・よさや成長を今後に生かす気持ちをもつ。	・自己のがんばりや成長したことなど、他者から認められる場を効果的に設定していく。

5 本時の指導

(1) 自尊感情を高めるための視点

○ 学習内容で高めるための視点

本活動は、自己の生活や学習の課題について考え、自己への理解を深める。自己の課題解決のために他者と話し合っ協力することで、よりよい課題を見出し、実践へとつなげることができる。

○ 指導方法で高めるための視点

これまでの目標達成のための手立てとして、達成の様子を数値化されたものについて振り返らせる。その際、個人の結果について ICT を活用し、視覚的に確認することで個々の意思決定へと向かっていこうとする気持ちを高める。

(2) 本時の目標

これからの学級や学校生活に希望や目標をもち、自分なりのめあてをもって学校生活を送ることができるようにする。

(3) 本校の学校教育目標との関連

【学びに向かう力と本校の学校教育目標との関連】

学びに向かう力と学校教育目標の具現化を、本時では以下のように考える。

やさしい子 …**関**「よりよい生活や人間関係をつくろうとする態度」

友達の意見に傾聴し、どんな意見も否定せずに共感しようとする姿

かしこい子 …**主**「主体的に学ぶ態度」

進んで自分の考えを発表する姿

客「自分を客観的に把握する力」

自分の考えとの違いや共通点を見つけようとする姿

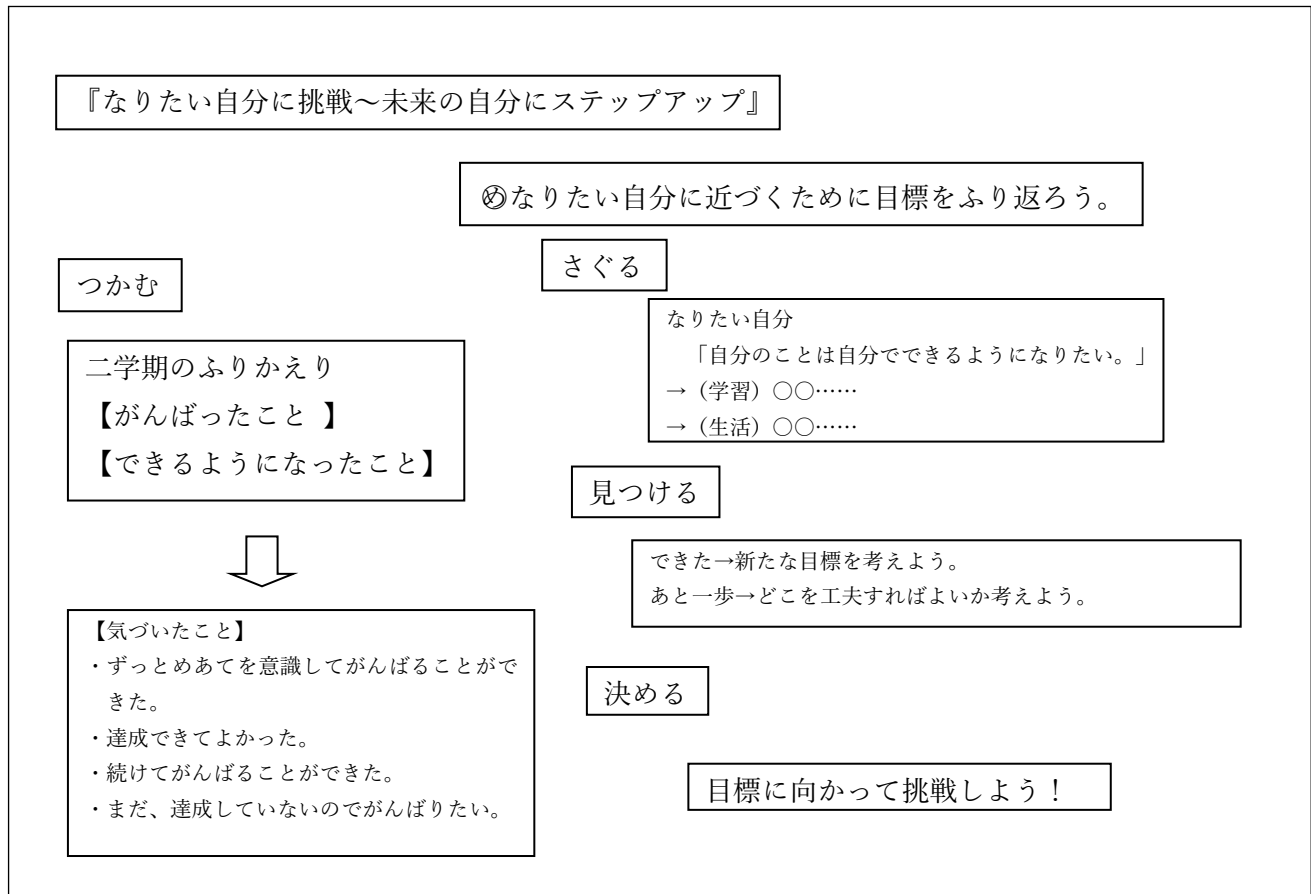
たくましい子…**律**「自分を律する力」

友達の意見をもとに、前向きに努力しようとする姿

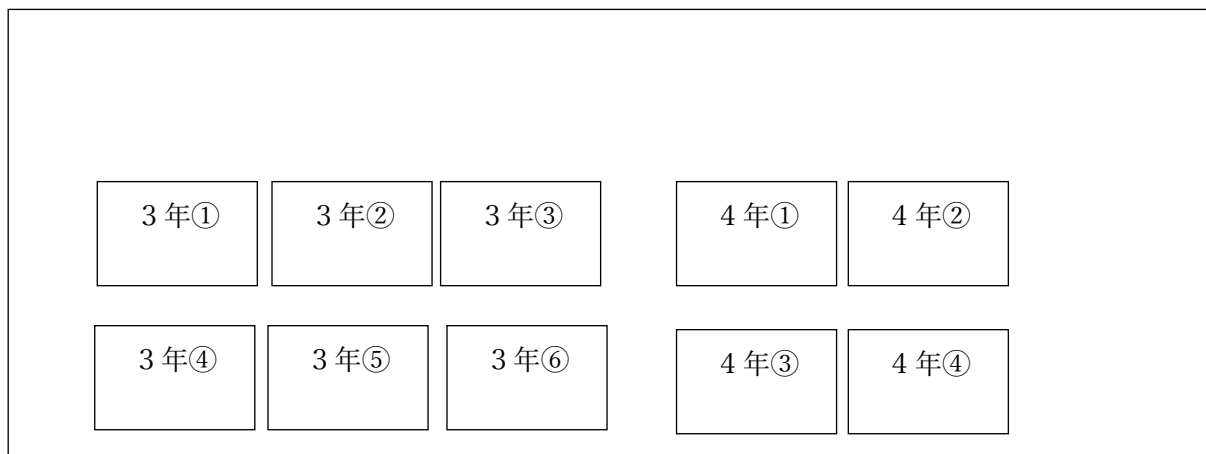
(4) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点	自尊感情を高めるために 目指す姿
導入 (つかむ) ⑮	【課題の把握】 ○ 二学期の学習・生活の様子を振り返り、がんばったことやできるようになったことを発表する。 ○ 児童の成長やよさを友達と共有し、認め合う。	・二学期の様子を称賛することで個々の意思決定への意欲をもつことができるようにする。 ・今の自分とこれからの自分とのつながりについて課題をもたせる。	ICT→二学期のふりかえり「ステップ・アップ」【データ】を見る。 ◇やさしい子 関 友達の意見に傾聴し、どんな意見も否定せずに共感しようとする姿
めあて になりたい自分に近づくために目標をふり返ろう。(学習・生活)			
展開 (さぐる・見つける) ⑳	【可能性への気づき】 ○ 二学期の目標(学習・生活)について成果や課題を明らかにし、課題解決について考えたり、新たな目標を設定したりする。 (個人) 【解決方法等の話し合い】 ○ 話し合いを通して他者からの評価をもらいながら、「になりたい自分」を追求するためにできることなどを友達と話し合って考えを広げ、更に強い意思決定になるようにする。 (ペア)	・自分が立てた目標を振り返ることで、自分のよさや成長を自覚したり、課題についても気付いたりするなど、これからの実践に向けて目標を再設定する。 ・できた→新たな目標を考えよう ・あと一步→どこを工夫すればよいか考えよう ・自分で考えることが難しい児童については、目標のリストを参考に考えさせる。 ・具体的な行動目標を考えるため、ペアの児童と話し合う時間を設ける。 ・友達の意見を肯定的に捉え、称賛し合う雰囲気作りを心がける。	◇かしこい子 主 進んで自分の考えを発表する姿 客 自分の考えとの違いや共通点を見つけようとする姿
終末 (決める) ㉑	【個人目標の意思決定】 ○ になりたい自分になるために、課題解決について振り返ったり、更なる具体的な目標などについて考えたりしたことを発表し、実践への強い決意をもつ。	・アドバイスをもらった時の気持ちなどを想起させ、決意をもたせる。	◇たくましい子 律 友達の意見をもとに、前向きに努力しようとする姿

(5) 板書計画



(6) 座席



第5・6学年 算数科学習指導案

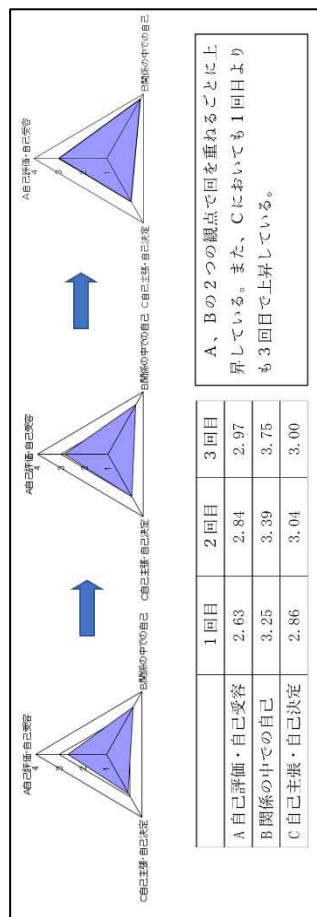
令和6年11月1日(金) 5校時
 平戸市立山田小学校
 第6学年1組 9名
 第5学年1組 4名
 授業者 高橋 祐一

1. 単元名 「図形の角を調べよう」 2. 単元について (1) 単元観 本単元は学習指導要領に以下のように位置付けられている。	1. 単元名 「比例の関係をくわしく調べよう」 2. 単元について (1) 単元観 本単元は学習指導要領に以下のように位置付けられている。
第5学年 B 図形 (1) 平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (イ) 三角形や四角形など多角形についての簡単な性質を理解すること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) 図形を構成する要素および図形間の関係に着目し、公正の仕方を考察したり、図形の性質を見出し、その性質を筋道を立てて考え説明したりすること。	第6学年 A 数と計算 (2) 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 数量を表す言葉や□、△などの代わりに、a、xなどの文字を用いて式に表したり、文字に数をあてはめて調べたりすることができる。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) 問題場面の数量に関係に着目し、数量の関係を簡潔かつ一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりすること。 C 変化と関係 (1) 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 比例の関係の意味や性質を理解すること。 (イ) 比例の関係をを用いた問題解決の方法について知ること。 (ウ) 反比例の関係について知ること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) 伴って変わる二つの数量を見いだし、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して、変化や対応の特徴を見いだすとともに、それらを日常生活に生かすこと。

第3学年では、三角定規を用いた直接比較を通して、角の大きさの相
当や大小について学習し、第4学年では、角の大きさについて、回転の大
きさとしてとらえられるように学習している。

本単元では、三角形を構成する要素の1つとして、角の大きさに着目
させ、その数量的な関係から、三つの角の大きさの和が一定であること
に気付かせていく。本単元で、育てたい資質・能力は図形の性質を演繹的
に考え説明することである。帰納的に調べて分かった「三角形の内角の
和が180°」ということを使って、四角形の内角の和を説明できるように
したい。また、「四角形は、三角形に分けて考えられる。」という考えを
基に五角形や六角形についても求めることができるよう、児童の考えを
引き出したい。

(2) 児童観

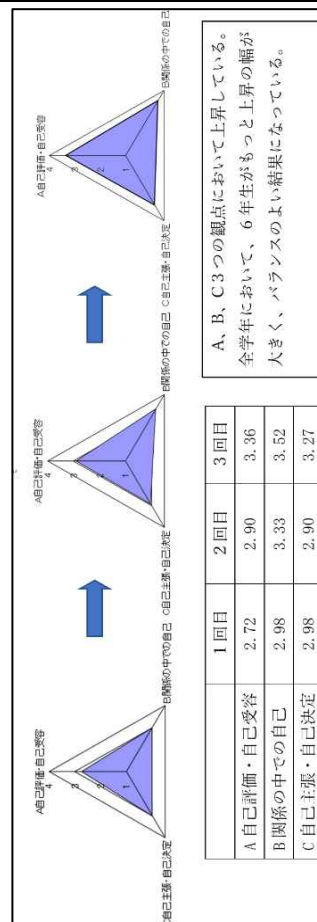


授業中、自分の考えを書いたり、問題を解いたりすることには意欲的な
ものの、内向的な児童が多く、発表については消極的である。そのため、
答えを導き出しているものの、自信がもてず、発言できる児童が少ない。
一方、ペア学習などでは、自分の考えを伝えることができる。自尊感情尺
度の結果においても、「A 自己評価・自己受容」「C 自己主張・自己決
定」が低い状態であった。これまで、授業中における発表の機会や複式学
習でのガイド学習を通して、数値の改善が見られるとともに、少しずつで
はあるがみんなの前で考えを説明ができるようになってきている。

第5学年では、表を横に見ながら、ある数が2倍、3倍、…になると、
もう一方も2倍、3倍…になるときの関係を『○は□に比例する』という
と、比例の定義をし、用語「比例」を学習した。

第6学年では、比例の意味や性質、比例の利用、さらに反比例について
知るとともに、日常生活において、伴って変わる2つの数量を見出し、目
的に応じて表、式、グラフを活用し、問題を解決する力を伸ばしていくこ
とをねらいとしている。また、第6学年では、比例の関係を用了問題解
決の方法を生活に生かすこともねらいとしている。生活で比例関係にある
数量を見出すことで、直接調べるのが難しかったり、非効率的であった
りする場面においても、問題を解決する見通しがもてるようにする。問題
解決の方法や正確さなどの結果を振り返り、必要に応じて、目的により適
したものに改善していくことも大切であり、積極的に比例の関係を活かそ
うとする態度を養っていく。

(2) 児童観



自尊感情尺度の結果では「A 自己評価・自己受容」が最も低く、自分
を肯定的に受けとめる児童が少ない状態であった。学習意欲はあり、学
習規律も身に付いているが、自分の考えに自信がもてない児童があり、
上位の児童が学習をリードする傾向である。そのため、学習においては
ICTを活用し、児童が自分の考えや意見を学級内で交流したり、振り返
りをしたりする活動を繰り返し行うことで、低位の児童も意欲的に参加
し、自分の考えを発言できるようになってきている。

令和6年度長崎県学力調査では、算数、国語ともに長崎県および平戸市の平均を上回る結果であった。特に算数は大幅に超えていた。しかし、本単元におけるレディネステストの結果では、正三角形の性質（角の大きさ）を問う問題は1名のみ正解で、既習事項が定着していない状況である。

④ 図形の角

5年
算数

三 角

① □に当てはまる数を書きましょう。

② 三角形では、□°の角の大きさが□°になっています。

③ 正三角形では、□°の角の大きさが□°で、□°の角の大きさが□°度です。

④ 三角形の角度は □° 度

⑤ A 角が □° 度

下の三角形を直尺で、辺を延長しましょう。

① 二等辺三角形はどれですか。

② 正三角形はどれですか。

③ 下の図のように二等辺三角形を組み合わせたとき、角の大きさは何度ですか。

④ ③、⑤の角度は、それぞれ何度ですか。

⑥

⑦

⑧

⑦の角度は、おぼろしいので、おぼろしいままに書いて。

①、③の角度は、それぞれ何度ですか。

⑥

⑦

⑧

令和6年度全国学力・学習状況調査では算数、国語ともに、全国および長崎県の平均を下回る結果であった。学級内での学力は二極化しており、学習の基礎的な内容が定着していない児童が3分の1いる。本単元における、レディネステストの結果では、比例の関係を式にしたとき、対応する値を求めたりする問題の正答率が低かった。さらに問題により正答率にばらつきがあり、定着が不十分な児童が多い。

[illegible]

問題	問題のねらい	正答率 (4人)
1	① 二等辺三角形の性質を理解しているか。	100%
	② 正三角形の性質を理解しているか。	25%
	③ 半回転の角度を理解しているか。	100%
	④ 4直角の角度を理解しているか。	100%
2	① 二等辺三角形を弁別できるか。	100%
	② 正三角形を弁別できる。	100%
3	① 三角定規の角の大きさがわかるか。	75%
4	① 半回転から、角度を求める。	100%
	② 平行な直線は他の直線と等しい角度で交わる こと、平角の利用。	75%
		100%
5	① 未習 三角形の内角の和がわかる。	25%
	② 未習 三角形の内角の和がわかる。	75%

問題	問題のねらい	正答率 (9人)
1	簡単な場合の比例の意味が分かっているか。また、比例の関係を式に表し、対応する値を求めることができるか。	① 55%
		② 88%
		③ 88%
		④ 100%
		⑤ 88%
		⑥ 33%
2	比を簡単にしたり、比の値を求めたりすることができるか。	① 88%
		② 77%
		③ 100%
		④ 55%
3	① 未習 反比例の意味を知り、関係を式に表すことができるか。	66%
	②	22%

(3)指導観

本単元では、児童が帰納的に見つけた三角形の内角の和が 180° になることを基に、四角形や多角形の内角の和を三角形がいくつ分かという視点に立ち、演繹的に求める力を養う。探求的な活動として、多角形の内角の和を演繹的に導き出す活動を通して、論理的思考力を育成したい。

本時の学習では、ICT を活用し、導入の際に児童が事前に作成した振り返りカードを活用することで、既習事項の定着を図る。発表が苦手な児童が多いことから、ペア、全体の順番で発表を行う。また、終末では、具体物を使って補足説明を行い、最終的に、図形の内角の和を求める際は、計算で行えることを目指す。単元を通して、児童自身がまとめた資料を活用することや、ガイド学習を通して、自分たちで学習を進めていき、達成感を味わわせることで、自尊感情の向上を目指したい。さらに、ICT を活用することで、視覚に訴える授業を構築し、児童の理解を深めたい。

3. 単元目標

【知識・技能】

三角形の内角の和について理解し、それを基に四角形や他の多角形の内角の和を求めることができる。

【思・判・表】

図形の角に着目し、三角形の内角の和についての性質を見だし、それを基に四角形や他の多角形の内角の和について演繹的に考え、説明している。

【主体的な態度】

三角形の内角の和が 180° であることを基に、四角形や他の多角形の性質を考え、過程や結果を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

(3)指導観

本単元では、比例や反比例の関係について理解し、伴って変わる2つの数量やそれらの関係に着目し、表、式、グラフを用いて変化や対応の特徴を見出し、2つの数量の関係を考察・分析する力を養う。比例や反比例の表やグラフの作成や読み取りではICTを使って、児童が容易に作成できるようにする。

本時の学習では日常生活で活用できる比例の課題を設定し、具体的な操作などを多く取り入れることで、一人一人が、自分の考えをもてるようにする。生活の中でも比例を使うと、簡単に素早く問題が解決できることがあることを実感させる。また、前時の振り返り、話し合い活動、本時のまとめにおいてはICTを活用し、視覚的に考えを共有できるようにしたい。さらに、自分の意見や他者の意見の共通点・相違点を話し合う場面を通して、多様な視点から問題解決を図りたい。本時の学習の、紙の枚数を数える場合は、比例を使うと効率的であるが、正確さはどうかなど、多面的な視点で考え、比例の良さを実感させたい。

3. 単元目標

【知識・技能】

比例や反比例の意味や性質、表やグラフの特徴について理解し、比例や反比例の関係にあたる2つの数量の関係を表や式、グラフに表したり、比例の関係をj用いて問題解決したりすることができる。

【思・判・表】

伴って変わる2つの数量を見出して、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して変化や対応の特徴を見出し、問題解決に活用している。

【主体的な態度】

数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

【学びに向かう力と本校の学校教育目標との関連】

学びに向かう力と学校教育目標の具現化を、本時では以下の様に考える。

やさしい子… 関「よりよい生活や人間関係をつくろうとする態度
友だちの意見に傾聴し、自分の考えとの違いや共通点を見つけ、共に学ぼうとする姿

かしこい子… 主「主体的に学ぶ態度」

進んで自分の意見を発表するとともに、他の考え方がないか試行錯誤する姿

密「自分を客観的に把握する力」

自分の考えとの違いや共通点を見つけようとする姿

たくましい子… 律「自分を律する力」

わからない問題があっても粘り強く考え、対話を通して最後まで取り組み姿

4. 指導計画・・・全6時（本時 3/6）

学習内容
①三角形や四角形の性質を振り返り、多角形の定義を知る。三角形の3つの角の大きさのまきを調べる。二等辺三角形では3つの角の大きさの和が 180° であることを確認し、他の三角形についての見通しをもつ。
②3つの角の和が 180° になることを確認する。三角形の内角の和が 180° になることを活用して、角度を計算でも求める。
③角度を測らないで、四角形の4つの内角の和を求める方法を考え、図や式を使って表す。四角形を三角形に分けて考えてみると、四角形の内角の和は 360° になることをまとめる。
④多角形の内角の和を三角形に分けて調べ、多角形の内角の和について表にまとめる。
⑤四角形の同じ図形を並べて、隙間なく敷き詰める。形も大きさも同じ四角形が敷き詰められるか考える。
⑥「たしかめよう」に取り組む。

4. 指導計画・・・全16時（本時 8/16）

学習内容
①②比例の性質について理解を深めまとめる。
③yがxに比例するとき、 $y=決まった数\times x$ と表せることを理解する。
④⑤比例の関係をグラフに表して考察することができ、比例のグラフの特徴を理解する。
⑥⑦比例のグラフを考察することを通して、比例のグラフについて理解を深めることができる。
⑧比例関係を活用した問題解決の方法を考え、表や式を用いて説明することができる。（画用紙300枚を数えないで用意する。）
⑨比例関係を活用した問題解決の方法を考え、表や式を用いて説明することができる。（速さ・影の長さ）
⑩学習内容を適用し問題を解決する。
⑪反比例の意味について理解する。
⑫反比例の性質について理解する。
⑬反比例のとき $y=決まった数\div x$ と表せることを理解し、反比例の関係を式に表すことができる。
⑭反比例の関係をグラフに表して考察することができる。
⑮学習内容を適用して問題を解決する。（練習問題）
⑯学習内容の定着を確認するとともに数学的な見方考え方を振り返り価値づける。（算数の目に取り組む。）

5. 自尊感情を高めるための視点

本学級の実態として、授業中、自分の意見をうまく主張できない児童が多い。そのため、本授業では ICT を活用し、「C 自己主張・自己決定」を高めることに重点を置きたい。

○指導方法で高めるための視点

- ・ 導入において、自分でまとめた学習のポイントを発表する時間を設けることで、児童が自信をもって学習に臨めるようにする。
- ・ 個別、ペアなど学習形態を工夫することで、より多く発言し、自己主張の機会を増やす。また、ICT を活用した意見交換により、自分の考えとの違いや共通点を見つけ、互いの良さを認め、伝え合えるようにする。
- ・ 5 年生では、学習の振り返りを「オクリンク」を使って記入する時間を設定することで、学習内容の理解度を深め、達成感を味わうことができるようにする。
- ・ 6 年生では、「オクリンクプラス」を活用して、本時の学習や友達のかえを振り返り、コメントを相互に送り合う。このことを通して、自分の考えに自信をもたせるとともに、次時の意欲へつなげる。

6. 本時の学習

(1) 目標

三角形の内角の和を基にして、四角形の内角の和を考え、説明することができる、多角形に考えを適用することができる。
(思考・判断・表現)

6. 本時の学習

(1) 目標

伴って変わる 2 つの数量を見出して、それらの関係に着目し、表や式を用いてそれらの関係を表現し、問題を解決する。
(思考・判断・表現)

(2) 本時の展開

[illegible]

⑧ 四角形の4つの角の大きさの和の求め方を考えよう。					
○前時までの学習との違いを確認する。 ☆昨日は三角形、今日は四角形 ○見通しを確認する。 ☆線を引く 2つに分ける ☆対角線を引く はさみで切る		●自力解決する。 ICTの活用【オクリンク】 ●三角形が2つ分だから		・解決に困っている児童には、線を引いたり、対角線で折ったりして、三角形に着目させる。 ・解決が進んでいる児童には、他の方法がないか指示しておく。 ・対角線の考えが出ない場合は、ICTを用いて提示する。 ・ライブモニタリングで児童の思考の様子を確認する。	
⑧ 四角形の4つの角の大きさの和の求め方を考えよう。		⑧ 四角形の4つの角の大きさの和の求め方を考えよう。		⑧ 四角形の4つの角の大きさの和の求め方を考えよう。	
○前時までの学習との違いを確認する。 ☆昨日は三角形、今日は四角形 ○見通しを確認する。 ☆線を引く 2つに分ける ☆対角線を引く はさみで切る		●自力解決する。 ICTの活用【オクリンク】 ●三角形が2つ分だから		・解決に困っている児童には、線を引いたり、対角線で折ったりして、三角形に着目させる。 ・解決が進んでいる児童には、他の方法がないか指示しておく。 ・対角線の考えが出ない場合は、ICTを用いて提示する。 ・ライブモニタリングで児童の思考の様子を確認する。	
⑧ 四角形の4つの角の大きさの和の求め方を考えよう。		⑧ 四角形の4つの角の大きさの和の求め方を考えよう。		⑧ 四角形の4つの角の大きさの和の求め方を考えよう。	

●互いに自分の考えをペアで交換し、ノートに評価し合う。 ●全体で意見を確認する。 ○本時の学習をまとめる。 ⑤ 四角形の4つの角の大きさの和は、三角形に分けて考えれば求めることができる。 ●適用問題に取り組む。 次の図形の5つの角の大きさの和は何度になりますか。 ☆三角形に分ける ☆三角形が3つ分になるので $180 \times 3 = 540$	【やさしい子】 関友だちの意見に傾聴し、自分の考えとの違いや共通点を見つけ、共に学ぼうとする姿 ・自分の考えと違う方法があった場合は、どの点が違ったのか発表する。 ・具体物で360度になることを確認する。	【かしこい子】 主進んで自分の意見を発表するとともに、他の考え方がないか試行錯誤する姿 【かしのこ子】 客自分の考えとの違いや共通点を見つけたようとする姿 【やさしい子】 関友だちの意見に傾聴し、自分の考えとの違いや共通点を見つけて、共に学ぼうとする姿 ⑤ おおまかな枚数の数え方など、日常の問題に比例を使える場合がある。	●表を横に見る ●表を縦に見る ICTの活用【オクリンクプラス】 ●オクリンクプラスで自分の考えと比べ、考えを開き合う。 ●全体で意見を確認する。 ☆比例のどんな性質を使ったのか。 ☆表をどのようにに活用したのか。 ○本時の学習をまとめる。 ○友達の考えにコメントする。 ○次時の確認をする。	終末 5分
--	--	---	---	--------------

(3) 評価

- 三角形の内角の和を基にして、四角形の内角の和の求め方を演繹的に考え説明している。(思・判・表)
- 主体的、対話的に粘り強く学習に取り組むとともに三角形を活用して演繹的に考えたことを振り返り、価値づけしている。(態度)

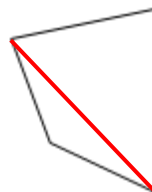
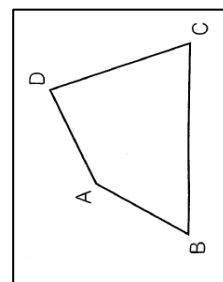
(4) 板書計画

11/1 図形の角を調べよう

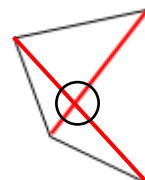
④ 四角形の4つの角の和は何度になりますか。

⑤ 四角形の4つの角の大きさの和の求め方を考えよう。

⑥ 四角形の4つの角の大きさの和は、三角形に分けて考えれば求めることができる。

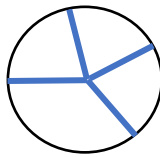


三角形2つに分ける
 $180 \times 2 = 360$

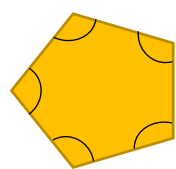


三角形4つに分ける
 $180 \times 4 = 720$
 $720 - 360 = 360$

⑦ 線を引く
 2つに分ける
 三角形にする



4つの角を集めても
 一回転 = 360°



(3) 評価

- 伴って変わる2つの数量を見出して、それらの関係に着目し、表や式を用いてそれらの関係を表現して、問題解決に活用している。(思・判・表)
- 比例の関係に着目するよさに気付き、比例の関係を生活や学習に活用しようとしている。(態度)

(4) 板書計画

11/1 比例の関係をくわしく調べよう

④ 画用紙300枚を数えないで、用意する方法を考えよう。

⑤ 画用紙を数えずに用意する方法を考えよう。

⑥ おおまかな枚数の数え方など、日常の問題に比例を使える場合がある。

⑦ 表を使う
 枚数と重さ
 枚数と厚さ

枚数と重さに注目

枚数	10	100	300
重さ	92	920	2760

$300 \div 100 = 3$
 $920 \times 3 = 2760g$

横に見ると
 $300 \div 10 = 30$
 $92 \times 30 = 2760$

振り返り

(x)			
(y)			

枚数と重さに注目

枚数	10	100	300
重さ	92	920	2760

$9.2 \div 1 = 9.2$
 $300 \times 9.2 = 2760g$

縦に見ると
 $92 \div 10 = 9.2$
 $300 \times 9.2 = 2760$

V 資料

1 自尊感情アンケート

【自尊感情測定尺度（東京都版）】

低学年

質問に対して、自分の気持ちに近い数字に○をつけてください。

「あてはまる」場合は4, 「どちらかといえばあてはまる」場合は3, どちらかというにあてはまらない」場合は2, 「あてはまらない」場合は1を○でかこんでください。

A 自己評価・自己受容	あなたは今の自分でよいと思いますか。
	あなたは自分のことが好きですか。
	あなたは自分がダメな人間だ と思うことがありますか。
	あなたは自分を大切に思えますか。
	あなたは今の自分は嫌いですか。
	自分には良いところがありますか。
	あなたはみんなの役に立っていないと思いますか。
	あなたは みんなと同じくらい大切な人間だとおもいますか。
B 関係の中での自己	みんなが言っていることを ちゃんときくことができますか。
	あなたは みんなの役に立ちたいとおもいますか。
	あなたはほかの人の気持ちがわかりますか。
	あなたには 自分のことを 分かってくれる人がいますか。
	みんなが嫌な気持ちにならないよう、一度決めたことはしっかりやりますか。
	自分のことを大切にしてくれている周りの人たちに「ありがとう」と思いますか。
	あなたには、あなたが いてほしいと 思ってくれる 人がいますか。
C 自己主張・自己決定	みんながちがうことを 言っても、自分が正しいと 思うことは はっきり言えますか。
	あなたにはできることがたくさんあるとおもいますか。
	あなたは自分の決めたことやすることが正しいと思えますか。
	あなたは自分の良いところも悪いところもよく分かっていますか。
	あなたは誰だれにも負けないもの(こと)がありますか。
	あなたは自分のことは自分で決めたいと思いますか。
	あなたは みんなとちがう自分を大切にしたいとおもいますか。

【自尊感情測定尺度（東京都版）】

高学年用

質問に対して、自分の気持ちに近い数字に○をつけてください。

「あてはまる」場合は4、「どちらかといえばあてはまる」場合は3、「どちらかというにあてはまらない」場合は2、「あてはまらない」場合は1を○でかこんでください。

A 自己評価・自己受容	私は今の自分に満足している
	私は自分のことが好きである
	自分はダメな人間だと思うことがある
	私は自分という存在を大切に思える
	私は今の自分は嫌いだ
	自分には良いところがある
	自分は誰の役にも立っていないと思う
	私は人と同じくらい価値のある人間である
B 関係の中での自己	人の意見を素直に聞くことができる
	私は人のために力を尽くしたい
	私はほかの人の気持ちになることができる
	私には自分のことを理解してくれる人がいる
	人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことには責任を持って取り組む
	自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している
C 自己主張・自己決定	私には自分のことを必要としてくれる人がいる
	人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる
	自分の中には様々な可能性がある
	私は自分の判断や行動を信じることができる
	私は自分の長所も短所もよく分かっている
	私には誰にも負けないもの（こと）がある
	私は自分のことは自分で決めたいと思う
	私は自分の個性を大事にしたい

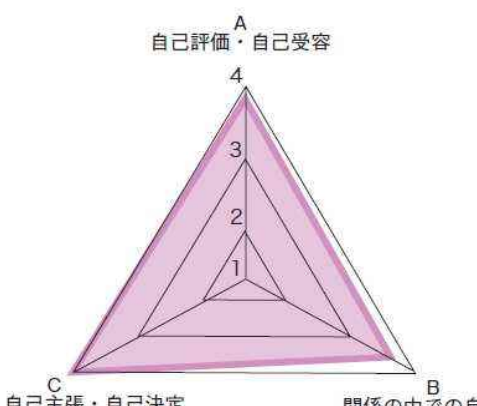
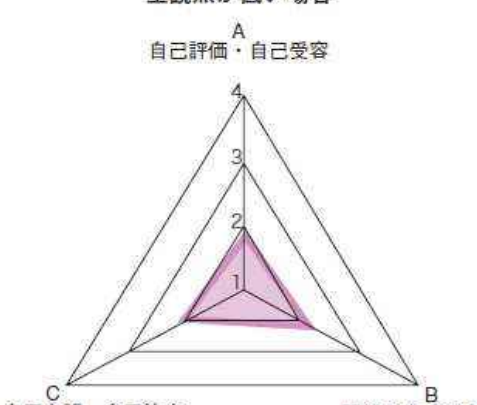
類型について

点数によって8つの型に分類される。

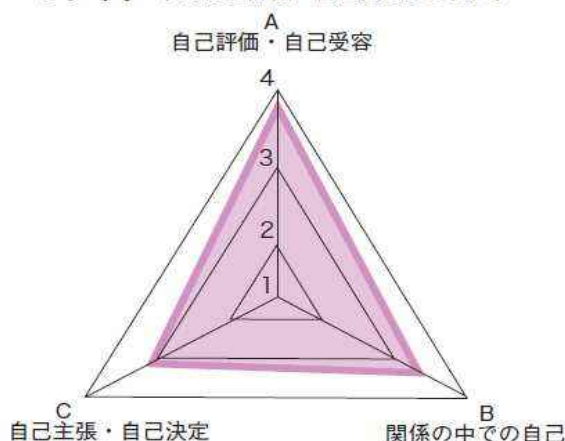
①全項目高い、②全項目低い、③Ⅰタイプ、④Ⅱタイプ

⑤Ⅲタイプ、⑥Ⅳタイプ、⑦Ⅴタイプ、⑧Ⅵタイプ

しかし、分類をしてみると、判断が難しい場合がある。

全観点が高い場合  A 自己評価・自己受容 4 3 2 1 C 自己主張・自己決定 B 関係の中での自己	●大きさの特徴として… 全体的に各観点の得点率が高く、特に東京都における傾向（68～69ページ参照）と比較して高い傾向にある子供です。 ●傾向として… このような子供は、自尊感情が高いと考えられ、次のような傾向が見られます。 ・ 自他共に大切にできる。 ・ 学校生活の適応は良好で学習面に意欲的に取り組む。 ・ 日常生活において落ち着いて、心身共に安定している。 小学校第1学年から第3学年では、特に自尊感情は高い傾向にあることから、(平成20年度「自尊感情や自己肯定感に関する意識調査」(東京都教職員研修センター)) 三角形が大きくなります。また、個別には、発達段階において自己を客観視できていない場合も考えられます。
全観点が高い場合  A 自己評価・自己受容 4 3 2 1 C 自己主張・自己決定 B 関係の中での自己	●レーダーチャートの特徴として… 全体的に各観点の得点率が低く、特に東京都における傾向（68～69ページ参照）と比較して著しく低い傾向にある子供です。 このような子供は、自尊感情が低いと考えられ、次のような傾向が見られます。 ●傾向として… ・ 自分の個性の理解、尊重ができず、自己に対して自信をもてない。 ・ 物事に熱中できるものがない。 ・ 学校生活や学習面の全般において消極的で、マイナス思考が強い。自己も他者も否定的に捉える傾向がある。 ・ 精神的に不安定であることが考えられる。 特に個別には、思春期以降に見られる場合が多くなります。しかし、自己を正しく評価していない可能性や周囲の評価を気にしすぎている、一時的な状況などの要因も考えられることから、日常生活の行動等から、子供の状況を把握したり、面談等を実施し要因把握を行ったりする必要があります。また、場合によっては、家庭やスクールカウンセラー等の協力が得られるよう支援します。

I タイプ（「A 自己評価・自己受容」が高い）



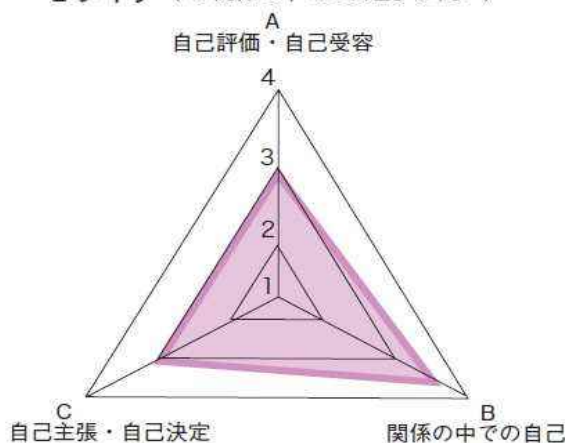
【傾 向】

- ・ もっとよくなりたいという意欲がある。
- ・ 自己愛が強く、他者と衝突しやすい傾向がある。
- ・ 自己評価が高いという傾向とは対極的で学校への適応や個人志向や社会志向は低い。
- ・ 他者からの評価や言葉かけを素直に受け止められない傾向がある。
- ・ 自分に対する評価が自我の強さや人との関係に裏打ちされたものになっていない。

【指導の方向性】

- ・ 他者と協力する場面を設定し、自分とは何か自己を客観的に見つめることができるようにする。
- ・ 他者のよいところにも気付かせ、協力して学校生活を送ることができるよう指導する。

II タイプ（「B 関係の中での自己」が高い）



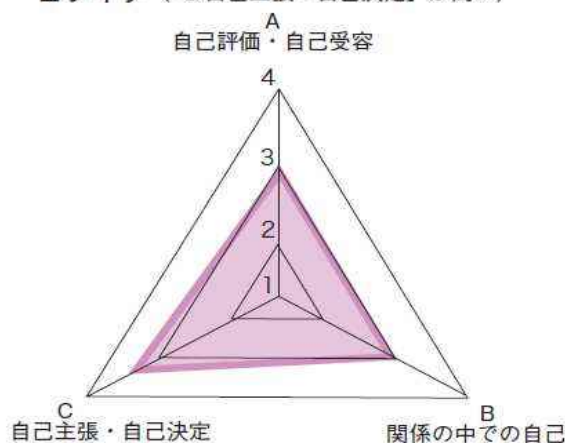
【傾 向】

- ・ 協調性が高く、集団になじみやすい。
- ・ 自分より他者の気持ちを優先し、思いやりの気持ちが強い。
- ・ 自分に自信がなく、人の視線を気にして自分の考えを伝えることを躊躇する。
- ・ 友達といないと不安になりやすく、数人のグループで行動する傾向にあり、他者の言動に流されやすい。
- ・ 人との関係などバランスが崩れるとわがままや依存性が表面化する可能性がある。

【指導の方向性】

- ・ 自分の判断や行動に自信をもたせ、自分のよさが感じられる場面や経験を増やす。
- ・ 他者との比較ではなく、自分なりの目標の達成を目指すようにさせる。

III タイプ（「C 自己主張・自己決定」が高い）



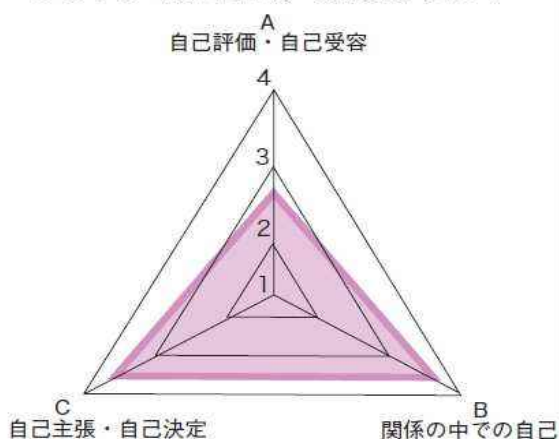
【傾 向】

- ・ 現状に満足せず、学級のリーダーになろうとする気持ちがあり、上昇志向が強い。
- ・ 自分の個性を尊重し、自分のペースを守ることができる。
- ・ 進路意識が高い。
- ・ 他者の助言より、自分の考え方や言い分、自分が決めたことが最善の方法と考える傾向が強い。
- ・ 自分をもつ情報だけで判断しがちである。
- ・ わがままや自己中心的な負の側面が出やすく教師など大人とぶつかりやすい傾向がある。

【指導の方向性】

- ・ リーダーになる意欲を尊重し、責任を果たせるよう支援する。
- ・ 友達との関わりの中で自分の役割を果たしていることを実感できるようにする。
- ・ 同じ事柄でも多様な考え方があり、受容できるような場面を設定する。

Ⅳタイプ（「A 自己評価・自己受容」が低い）



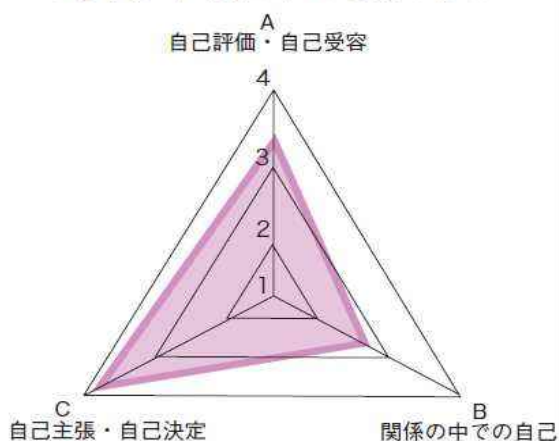
【傾 向】

- ・発達段階が進むにつれ、思春期・青年期に多く見られる傾向である。（「東京都における調査結果」68～69ページ参照）。
- ・他者を理解し、相手との接点を見い出して関係を成立させ協調性を重んじている。
- ・自分の短所が気になり、他者と比較して自己を評価する傾向が強い。
- ・自分に自信がないため、自己を否定的に見る傾向が強い。
- ・人との関係などバランスが崩れるとわがままや依存性が表面化する可能性もある。

【指導の方向性】

- ・自分のよさや個性を認識する場面や経験を増やし、ありのままの自分を受け入れられるようにする。
- ・自己評価が高まるように具体的な場면을捉えて褒める。
- ・保護者に学校で意欲的に取り組んだ成果をきめ細やかに伝え、家庭でも認め、褒めてもらう。

Ⅴタイプ（「B 関係の中での自己」が低い）



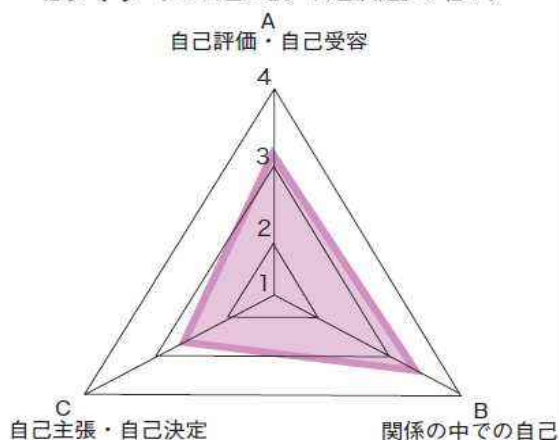
【傾 向】

- ・自分の考えをしっかりとっている。
- ・好きなこと、得意なことを見つけて打ち込むことができる。
- ・一人で行動することに自信をもっている。
- ・周りの人への感謝の気持ちをもったり、人のために力を尽くそうとしたりする気持ちが弱い。
- ・人との関係を築くなど対人関係における適応が難しい。
- ・集団との関わりや協力を避ける傾向にある。
- ・個人化が強まりすぎると自己中心性やわがままにつながる可能性がある。

【指導の方向性】

- ・人との関わりの中で自分があることに気付かせる場面を設定する。
- ・体験的な活動を通して、集団のために活動する喜びを体験させる。

Ⅵタイプ（「C 自己主張・自己決定」が低い）



【傾 向】

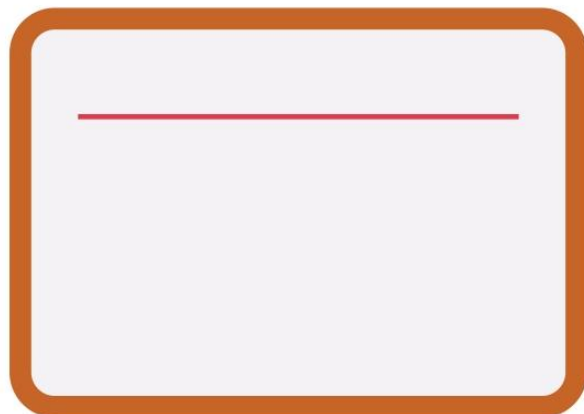
- ・穏やかで友人関係や周りの人との関係が良好であり、学校適応の点では大きな問題はない。
- ・集団での活動に協力的な傾向が見られる。
- ・積極的な自己開示をしようとせず、進路意識や自分の判断・行動に不安がある。
- ・周囲の評価を気にするあまりに、自分を見失ったり、自我を押さえすぎて行動できなかったりする側面が見られる。

【指導の方向性】

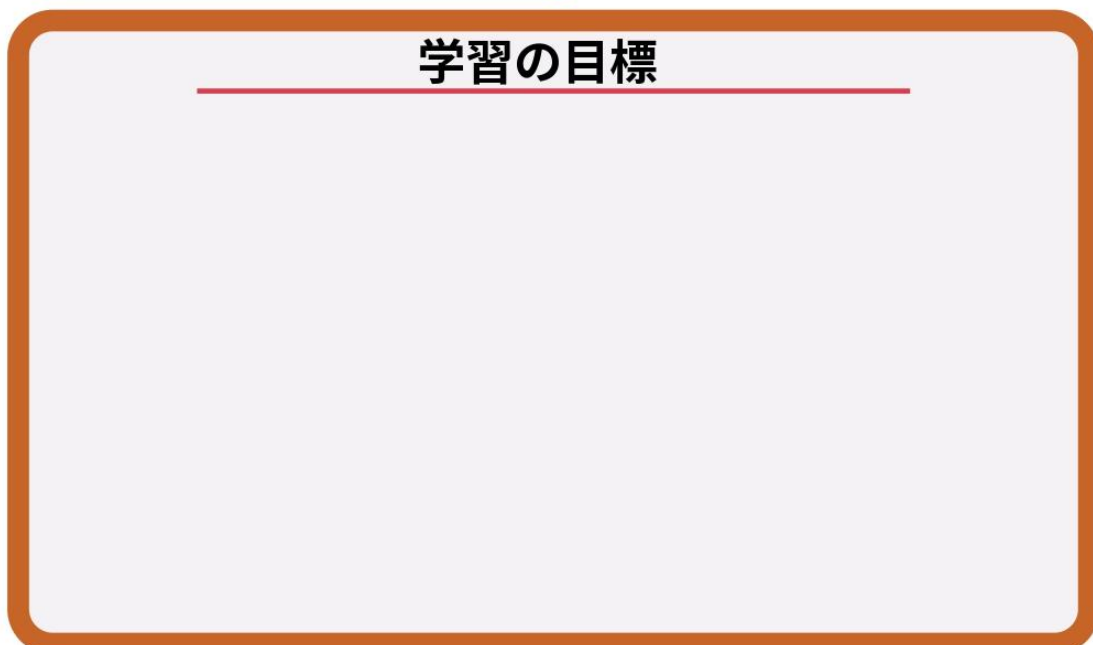
- ・他者との比較ではなく、自分なりの目標の達成を目指すように支援する。
- ・自分の判断や自分で決定することに自信をもたせ、好きなこと得意なことを見つけて、打ち込めるようにさせる。

2 学期のめあて

名前



学習の目標

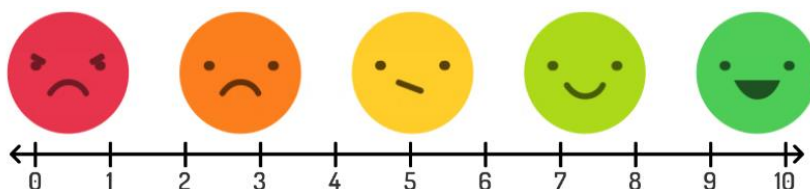


生活の目標



名前()

日付	今日のふいかえい(自分・友達)	
／ (月)		
／ (火)		
／ (水)		
／ (木)		
めあて(学習・生活)ふいかえい		
／ (金)		



今週のめあては
どれくらい
たっせいできたかな？

今月の 生活もくひょう



今月の保健・給食もくひょう



3 山小挑戦表

山小挑戦表(低学年)

山小ちょうせん表

じゅぎょうでのとりくみ

わからないことをしつもんする

☐

はっぴょうを〇かいする

☐

はっぴょうはさいごまでする

☐

はっぴょうはひとのかおみて

☐

はなしあいでもかいのはっぴょう

☐

はっぴょうはきこえるこえです

☐

つぎのじゅぎょうのじゅんびをする

☐

ふくしきのがくしゅうをすすめる

☐

ノートをていねいなじでかく

☐

ぎょうじですすんでがんばる

☐

山小ちょうせん表

いえでのとりくみ

しゅくだいをする

☐

まいにち、○ふんべんきょうする

☐

しゅくだいは○じまでにする

☐

カタカナのれんしゅうをする

☐

じしゅがくしゅうをする

☐

○日、じしゅがくしゅうをする

☐

もじをていねにかく

☐

おんどくを大きなこえでする

☐

その日のがくしゅうをふりかえる

☐

テストのやりなおしをする

☐

あしたのよういはまえの日にする

☐

ふでばこのなかをかくにんする

☐

えんぴつをまいにちとぐ

☐

山小ちょうせん表

せいかつでのとりくみ

ゲームやテレビは1日〇ふん

☐

〇じまでに ねるじゅんびをする

☐

まい日、じぶんでおきる

☐

あさごはんをたべる

☐

ハンカチティッシュをみにつける

☐

じぶんからあいさつする

☐

えがおであいさつする

☐

大きなこえであいさつする

☐

ちいきの人にあいさつする

☐

1ふんまえにすわる

☐

外でげんきにあそぶ

☐

ともだちのいいところをつたえる

☐

とうばんのしごとをする

☐

ことばつかいにきをつける

☐

ともだちにやさしくする

☐

山小ちょうせん表

授業中のとりくみ

自分から質問する

☐

発表を○回以上する

☐

発表は最後まで話す

☐

発表する人の顔を見る

☐

話し合いのとき○回は発言

☐

発表は相手に聞こえる声で

☐

次の授業の準備をする

☐

複式学習で自分たちで進める

☐

ノートをていねいな字で書く

☐

行事のときは進んで役割に挑戦

☐

山小ちょうせん表

家でのとりくみ

宿題を忘れずにする

☐

毎日、○時間勉強する

☐

宿題は8時までにする

☐

ローマ字日記を毎日する

☐

自主学習を工夫する

☐

週○日、○分、自主学習をする

☐

文字をていねに書く

☐

音読を大きな声でする

☐

その日の学習を復習する

☐

テストのやりなおしを家でする

☐

次の日の準備はその日にする

☐

筆箱の中身を確認、えんぴつをとぐ

☐

山小ちょうせん表

生活でのとりくみ

ゲームやテレビは1日〇分

☐

〇時までには寝る準備をする

☐

毎日、自分で起きる

☐

朝ご飯を食べる

☐

ハンカチ・ティッシュを身につける

☐

自分からあいさつする

☐

笑顔であいさつする

☐

大きな声であいさつする

☐

地域の人にあいさつする

☐

1分前着席を心がける

☐

外で元気に遊ぶ

☐

友達のいいところを伝える

☐

当番の仕事を進んでする

☐

言葉つかいに気をつける

☐

友達に優しい態度で接する

☐

低学年のお手本になる

☐

4 自学ノート

自学ノート(高学年用)

家庭学习 分

分

[illegible]

7

月

7

A

()

[illegible]A blank sheet of graph paper featuring a uniform grid of squares. The grid consists of 20 columns and 20 rows, creating a total of 400 small square units. The lines are thin and black, set against a white background. There are no margins, text, or other markings on the page.

--	--	--	--

ここにはアルファベットの練習

家庭学習

40 分

A B C D E F G H I

九

月

一

日

(火)

ここには計算問題をしよう

①	27	②	858	③	43
+	38	-	174	x	6
	65		84		258

ここには漢字の練習をしよう

発明 運ぶ 黒板 短い 場所

漢字は左から右に
お手本を見て書くといいよ

ここには意味調べや作文をしよう

連続 集中 出席 登校
切れ目なく続けること。良いことが連続する。
一か所に集まること。質問が集中する。
話し合ったり授業に出る。出席する。
学校へ行くこと。下校 登校する。

ここにはアルファベットの練習

家庭学習

60 分

What food do you like?

九

月

一

日

(火)

ここには計算問題をしよう

①	25		②	5		③	805
x	13		15	75		-	578
	75			75			227
	25			0			
	325						

ここには漢字の練習をしよう

圧	圧	圧	圧	
力	力	力	力	
移				
る				
利				
益				
営				
む				
確				
実				

漢字は左から右に
お手本を見て書くといいよ

ここには意味調べや作文

ぼくは昨日、バレーボールの練習を
しました。六年生にパスを教えても、い
とても上達しました。来週はぼく
が下級生に教えてあげたいです。

おわりに

令和5、6年度に平戸市教育委員会の指定を受け、「自尊感情を育む教育活動の在り方」というテーマで研究を進めてまいりました。本研究では、授業のみならず、教育活動全体を通じた取組を行ってきました。本日の発表でご覧いただいた通り、新たに始めた取組はほとんどありません。これまでの活動をしっかりと PDCA サイクルで確認し、成果を上げてきた内容です。

4月に長崎県教育委員会から示された「学びの習慣化メソッド」には、「主体的な学ぶ態度」、「自分を客観的に把握する力」、「自分を律する力」、「よりよい生活や人間関係をつくろうとする態度」という4つの「学びに向かう力」が示されています。本校では特に「よりよい生活や人間関係をつくろうとする態度」を重視し、研究を進めてきました。他者との関係の中で自己を見つめ、友人と関わることにより、「自分も学校に役立つ存在である」、「自分も学校を変える力がある」という意識が育まれます。これは、第4期教育振興計画に示されている「自分も社会の役に立つことができる」、「自分も社会を変えることができる」という社会参画の意識を高めることにつながると考えています。

「挑戦」というキーワードを軸に研究を進めてきましたが、子供たちが予測困難な未来を生き抜くためには、「学びに向かう力」を高め、「挑戦」を恐れずに自らの可能性を広げることが、私たち教育者にとって重要な役割です。また、子供たちの思いやりの心を育むことで、互いに支え合いながら成長できる環境を築くことができると信じています。

結びに、2年間にわたり貴重なご助言とご指導をいただきました平戸市教育委員会の皆様、並びに関係各位の方々に心より感謝申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

令和6年11月1日

平戸市立山田小学校

教頭 木場 基之

研

究

同

人

令和5年度

校 長 佐藤 良平

教 頭 木場 基之

教 諭 木寺 マキ子

教 諭 下田 春奈

研究主任

教 諭 高橋 祐一

教 諭 神保 裕行

教 諭 値賀 浩司

教 諭 中園 信子

養護教諭 田中 七海

養護助教諭 岡田 まゆみ

事務職員 西村 和歌子

支援員 里 清美

用務員 尾形 弘美

A L T Mary

令和6年度

校 長 村川 司麻

教 頭 木場 基之

教 諭 木寺 マキ子

教 諭 下田 春奈

研究主任

教 諭 高橋 祐一

教 諭 田口 眞由美

講 師 高橋 啓子

養護教諭 田中 七海

養護助教諭 岡田 まゆみ

事務職員 西村 和歌子

支援員 田中 孝子

用務員 尾形 弘美

A L T Mary



平戸市立山田小学校

住所 〒859-5704 平戸市生月町山田免 511

電話 0950-22-9243

FAX 0950-53-1004

URL <https://www.city.hirado.nagasaki.jp/kurashi/school/yamada/index.html>

E-mail yamada-es@hirado.ed.jp
